

Corporate Social Responsibility Report  
トプコングループCSR報告書  
2010

発行・お問合せ先

株式会社トプコン

TOPCON CSR Committee (事務局 総務・CSR部)

〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75-1 TEL: 03-3558-2893 FAX: 03-3558-0705 ホームページアドレス <http://www.topcon.co.jp>



VOC (揮発性有機化合物) 成分ゼロの環境に  
配慮した100%植物油インキを使用しました。



Corporate Social Responsibility Report  
トプコングループCSR報告書

2010



## 会社概要

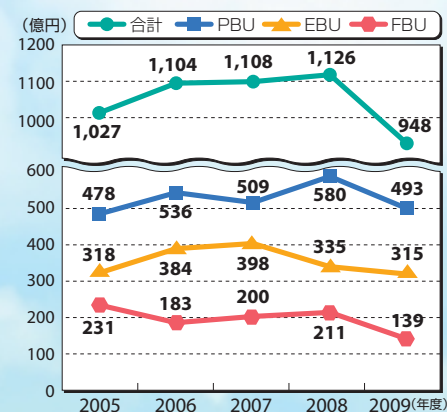
- 会社名 株式会社トプコン  
(TOPCON CORPORATION)
- 設立 1932年9月1日
- 本社所在地 東京都板橋区蓮沼町75-1
- 代表者 取締役社長 横倉 隆
- 資本金 10,297百万円／2010年3月末現在
- 事業内容 ポジショニングビジネス(測量機器事業)  
アイケアビジネス(医用機器事業)  
ファインテックビジネス  
(産業機器事業、光デバイス事業)
- 支持をしている主なCSR関係の国際憲章  
国連グローバル・コンパクト
- グループ 国内13社、海外43社  
(2010年3月末現在の連結子会社)
- 社員数 4,888名  
(トプコングループ合計/2010年3月末現在)

## トプコングループ



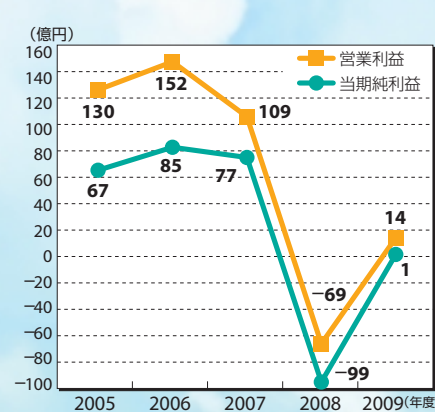
## 財務情報

### ●連結売上高



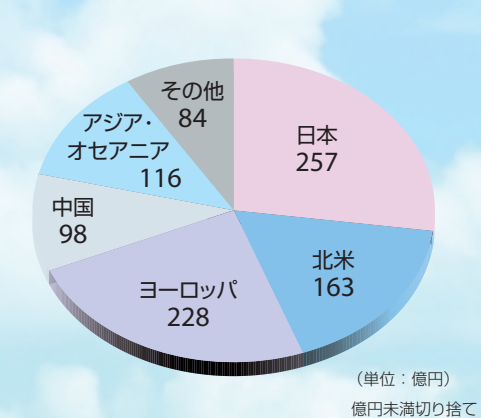
PBU：ポジショニングビジネスユニット  
EBU：アイケアビジネスユニット  
FBU：ファインテックビジネスユニット

### ●営業利益、当期純利益



<http://www.topcon.co.jp/corporate/index.html> (会社概要)  
<http://www.topcon.co.jp/invest/securities.html> (有価証券報告書)

### ●国別売上高



## 編集方針

トプコングループでは、2006年に第1回目のCSR報告書を発行して以来、CSRに対する考え方、取り組みを、トプコングループのステークホルダーの皆さんにお伝えするよう努めています。

今回5回目となる本誌では、取り組み(活動)報告と、適切な情報開示に重点を置き、トプコン事業行動基準と主な方針はWebサイトに掲載しました。

CSR報告書に関するガイドライン、NPO法人等との情報交流、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークにおける分科会活動などを参考に、より適切な情報開示ができるように心がけました。

トプコングループが果たすべき社会的責任の一つとして、社会問題に対するトプコン製品のかかわりについて特集しました。

なおグローバル・コンパクトへの参加の条件として、毎年10原則(人権・労働・環境・腐敗防止)に関する活動報告(COP)の提出義務があり、本報告書はそのCOPとして作成しました。

### ●報告書の対象期間

2009年4月1日から2010年3月31日までの活動を中心に報告しています。

### ●対象範囲

トプコングループ全体の活動を基本とし、範囲を限定する場合にはその旨を記載しています。

### ●発行時期

今回/2010年6月(前回/2009年6月)

### ●参考にしたガイドライン

GRI (GLOBAL Reporting Initiative) ガイドライン第3版

環境省 環境報告書ガイドライン2007年版

## ＜Webサイトについて＞

トプコングループは、事業行動基準にある「広く社会とのコミュニケーションを図り、正しい企業情報を適時・適切に開示する。」に基づき、各種法令や証券取引所などの定める規則等に則った情報開示をおこなっています。また、ステークホルダーの皆さんに関係ある

情報は、迅速・公正に開示しています。

なお、トプコングループのWebサイトは複数の外部評価機関より高い評価をいただいています。詳しくは「投資家情報」のページをご覧ください。

●社会・環境活動のページには、本報告書や過去の報告書のPDF版、本報告書に掲載しきれなかった追加環境情報の他、トプコン事業行動基準、CSRに関する主な方針を掲載しています。

- <http://www.topcon.co.jp/csr/index.html> (社会・環境活動(CSR))
- <http://www.topcon.co.jp/csr/code.html> (トプコン事業行動基準)
- <http://www.topcon.co.jp/csr/policy.html> (CSRに関する主な方針)

●投資家情報のページには株価や財務関連情報他、上記Webサイトに関する評価等を掲載しています。

- <http://www.topcon.co.jp/invest/index.html> (投資家情報(IR))
- <http://www.topcon.co.jp/invest/individual/index.html> (個人投資家のみなさまへ)

## C O N T E N T S

会社概要	1
トプコングループ	1
財務情報	1
編集方針	2

### CSRマインド

トップメッセージ	3
国連グローバル・コンパクト	4
CSR基本方針 他	5
事業紹介	6
CSRの取り組みと目標(抜粋)	7

### 特集

トプコン製品と社会とのかかわり	9
-----------------	---

### CSRマネジメント報告

CSR月間行事 他	11
リスク・コンプライアンス	11
BCP(事業継続計画)の策定	12
内部統制に関する活動	12

### CSRアクティビティ報告

環境保全活動	14
社会貢献情報	19
社員への責任	21
お客様・取引先への責任	25

### 第三者意見

第三者意見	26
第三者意見を受けて	26





## CSR経営を企業文化に

### 経営理念を実践

トプコングループがグローバルに展開するポジショニング・アイケア・ファインテックの各事業分野は、社会インフラ、医療、先端分野など人々の生活に密接に関係し、社会性が極めて高いと判断しております。

「企業活動を通じて広く人類社会に貢献する」という私たちの経営理念を実践し、社員が誇りに思うグループ、社会から信頼されるグループを目指すことが、社会的責任を果たす経営であると考えています。

いかなる事業環境下にあっても、経営理念にこめられた先人の思いを原点に、将来に向けたビジョンを明確にし、CSR経営を進めてまいります。特に、地球環境への配慮、という視点では「かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいく」というグループ共通の認識の下、環境調和型製品や環境貢献型製品の開発を通じ、省資源、省エネルギーを実現してまいります。

### グループ・グローバルにCSRを実践

トプコングループは、社員の半数以上が日本以外で働いており、海外売上高が70%を超えるグローバル性を持っています。

それぞれの国・地域における法令、社会規範、歴史、文化は異なり、社員の価値観も多様です。それだけに、グループ一体となって、CSR経営を推進するには、一人ひとりが根幹となる価値観を共有する事が大切であり、2008年10月、CSRについての基本方針を明文化しました。

更に責任者としてトプコングループの経営理念を共有し、異文化を受容しながら、すべてのステークホルダーと直接的なコミュニケーションがとれ、業務を遂行できるグローバル性を有する人財の育成と、CSRの視点で業務を展開できるグループ内の環境づくりに努めます。

### グローバル・コンパクトの精神を尊重

トプコングループは、2007年10月に「国連グローバル・コンパクト(GC)」に参加しました。同時にグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク(GC-JN)に加入、2009年度にはCSR報告書研究分科会に参加し、国内のCSR報告書のレベルアップに貢献しております。

GC10原則の考えをトプコングループの戦略・文化・日常業務に取り込み、より良い経営活動の指針として徹底し、推進を図っています。トプコングループの価値観として、CSR基本方針やトプコン事業行動基準にもその趣旨を反映させ、ステークホルダーの皆様に対し、責任ある企業活動を果たすための礎としています。

トプコングループはこれからも皆様の期待に応えるべく、企業活動を通じてCSR活動をおこなってまいります。

今後も皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いと存じます。

株式会社トプコン  
取締役社長

横倉 隆

### 国連グローバル・コンパクト

トプコングループは2007年10月、国連の提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する世界共通の普遍的な原則である国連グローバル・コンパクト(以下GC)に参加し、事業活動に取り込んでいくことを宣言しました。

参加に合わせてGCの精神を反映したCSR基本方針を制定し、事業行動基準の改定もおこないました。

また、社員教育のテキストにもGCに関する内容を取り入れ、グループ内への浸透を図っています。

GC-JNのCSR報告書研究分科会では、各企業のCSR報告書内容を検証して、好事例について情報の共有化を図りました。また、国連が認める優秀なCSR報告書(Notable COP)の判定及び推薦にも携わりました。

#### GCの10原則

##### ●人 権

- 原則1 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
- 原則2 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

##### ●労働基準

- 原則3 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
- 原則4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
- 原則5 児童労働の実効的な廃止を支持し、
- 原則6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

##### ●環 境

- 原則7 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
- 原則8 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
- 原則9 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

##### ●腐敗防止

- 原則10 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。



 <http://www.unic.or.jp/globalcomp/>  
(国連グローバル・コンパクト)



# CSRマインド

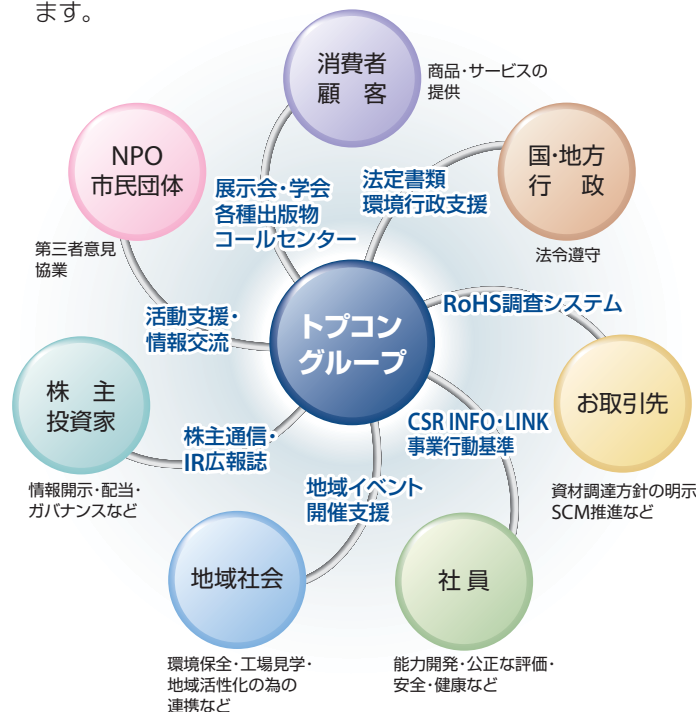
トプコングループの経営理念、経営方針、事業行動基準に基づき、また国連グローバル・コンパクトの提唱する10原則に準拠したCSRを推進するため、トプコングループ共通の基本方針、体制を構築しました。

## ●● CSR基本方針 ●●

- 1 グローバル企業にふさわしい価値観、基準を形成・共有し実践するため、CSR活動を経営の中に位置づけ、計画的に取り組めます。
- 2 グローバル・コンパクトに掲げられるとおり、影響力のおよぶ範囲内で、人権、労働基準、環境、腐敗防止に関して、国際的に認められた規範を支持し、実践します。
- 3 有用な商品の開発、製造、販売、サービスを通じて、人類社会への貢献を主体的・能動的に果たします。
- 4 環境に配慮した事業プロセスの構築、商品・サービスの提供等により、環境経営を推進します。
- 5 役員、社員一人ひとりの日常活動への定着、グループ・グローバルでの浸透、定着を図ります。
- 6 積極的な情報発信により、トプコングループに対するすべてのステークホルダーの理解と信頼を獲得します。

## ●● ステークホルダーとトプコングループとの関係 ●●

CSR基本方針に基づき、社会問題の解決に資する商品の提供等とともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを重視し、企業活動を通じた社会貢献を目指します。

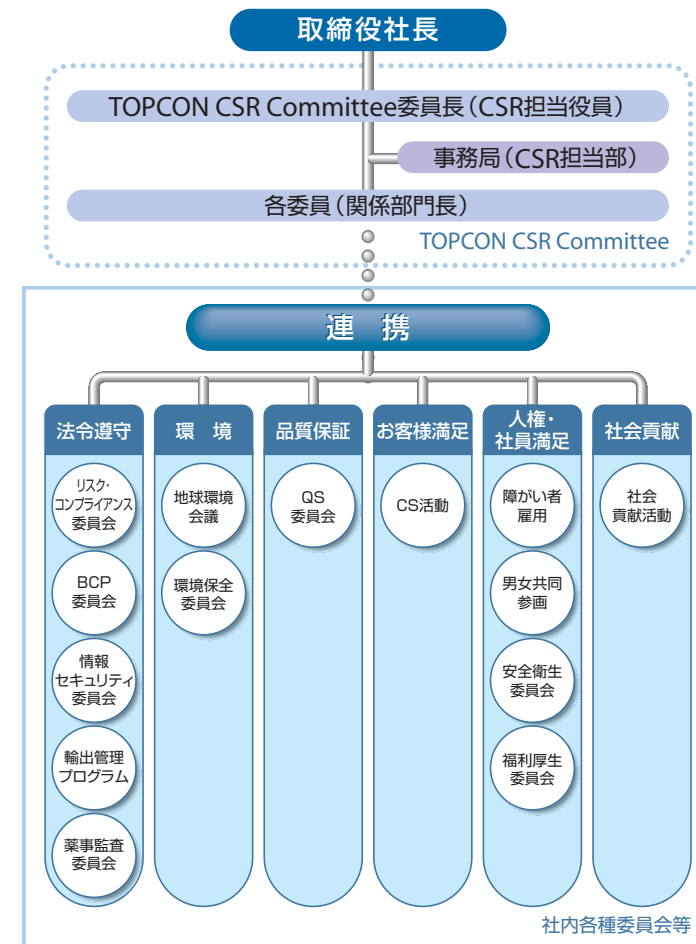


トプコングループでは、CSR報告書やWebサイト以外にも、さまざまなコミュニケーションをおこなっています。

- <http://www.topcon.co.jp/corporate/philosophy.html> (経営理念、経営方針)
- <http://www.topcon.co.jp/csr/code.html> (事業行動基準)
- <http://www.topcon.co.jp/invest/governance.html> (コーポレートガバナンス)

## ●● CSR推進体制 ●●

当グループのCSR活動は、「TOPCON CSR Committee」で方針決定し、CSRに係わる各種委員会、関連部門と連携を図り、グループ・グローバルに展開しています。



## 事業紹介

トプコングループでは創業時より培った光学技術を基にし、さまざまな製品を世界市場に送り出しています。ここでは、3つのビジネスユニットの事業内容と製品を、CSRの視点でご紹介します。

### ポジショニングビジネスユニット

ポジショニングビジネスユニットは、主にGPS・トータルステーション・レーザーなど位置や距離・角度を測定する機器を提供しています。2007年より参入した精密農業分野においては、農機の自動制御や肥料の適正散布を可能にする統合システムを実現し、営農プロセスの効率化と環境負荷の低減に貢献しています。

### 食の安全を確保する農業生産の統合システム「System110」「System150」「System250」「CropSpec」

「精密農業」のエントリーモデルであるSystem110は、LEDや誘導画面の表示に従って農機を運転するだけで、昼夜を問わず満遍なく肥料等の散布をおこなうことが可能なガイダンスシステムです。自動ステアリングシステムのSystem150は、走行パターンに沿った自動走行により重複作業を大幅に削減します。最上位モデルのSystem250は、植物の生育状況を光学的に測定するリアルタイム育成センサーCropSpecと自動ステアリング、可変散布機能の組み合わせにより、作物の生育状況に合わせた最適な肥料の散布がおこなえるシステムです。

トプコングループの「精密農業システム」を活用すると、散布した薬品の種類や量の履歴を記録、確認できるので、食の安全確保が推進できます。肥料や燃料の節約によるコストダウンのほか、農業使用量やCO<sub>2</sub>排出量を削減することで、環境にもやさしい農業事業を実現します。



### アイケアビジネスユニット

アイケアビジネスユニットは、主に眼科向けの検査装置や治療機器、眼科ITソリューション、眼鏡店向けのレンズ加工機器等を提供しています。  
(眼科向け機器についてはP9～10の特集『トプコン製品と社会とのかかわり』で詳しくご紹介しています)

### 眼科情報統合による医療の質向上に貢献「眼科診療支援システムIMAGEnet」

IMAGEnetは、眼科診療における眼底画像・視力データ・眼圧データ等、多種類の画像や検査データを一元管理するシステムです。多彩なプログラムにより画像解析や統計処理が簡単におこなえ、収集したデータを最大限に活用することができます。これにより眼科医の正確な診断を強力にバックアップし、診療業務の省力化を支援します。更に病院内の電子カルテシステムとのデータ連携やインターネットを介した医療施設間のデータ共有化を支援し、医療の質の向上に貢献しています。



### ファインテックビジネスユニット

ファインテックビジネスユニットは、主に半導体・フラットパネルディスプレイ(FPD)産業で使われる検査装置を提供しています。また電子ビーム関連、プロジェクター用光学ユニット、DVD用光学部品、航空宇宙関連光学機器などの製品を提供しています。

### 省エネに貢献する「LED用チップ外観検査装置Vi-SW150」

LED(Light Emitting Diode:発光ダイオード)は、従来の白熱電球や蛍光灯に比較して消費電力が低く、寿命も長いため、省エネ効果が優れた照明器具として注目されています。各国政府の要請のもと2012年頃には、日本、EUを始めとする先進国、地域では基本的に白熱電球の製造・販売が中止されます。このため代替品としてLED電球の普及が世界的に加速することが予測されています。また、薄型テレビにおいても蛍光管の代わりにLEDをバックライトとしたLED液晶テレビが普及してきました。トプコングループは、このような省エネに貢献するLEDを製造するために使われる専用検査装置を供給し、CO<sub>2</sub>排出量削減を促進し地球温暖化防止に貢献しています。



- <http://www.topcon.co.jp/products/index.html> (各ビジネスユニットの「製品情報」)



TOPCON CSR Committeeでは、年度ごとの活動実績を確認し、翌年度に実施する活動の目標・計画を策定しています。

2009年度に関しては、CSR月間、パワーハラスメント防止規則制定、BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)行動計画策定など、多岐にわたる新たな活動に取り組みました。

区分	項目	2009年度の主な目標・計画	2009年度の主な実施事項	2010年度の主な目標・計画
マネジメント報告	コーポレート・ガバナンス	○CSR月間設定(方針徹底、企業風土醸成) ○コーポレート・ガバナンス/CSR教育実施(トプコン部長・新任課長職対象)	○CSR月間を設定し、教育他各種行事実施 ○トプコン部長・新任課長職対象に実施	○事業行動基準解説版の発行とグループ内周知 ○内容見直しの上継続実施
	リスク・コンプライアンス	○BCP構築と経営層による評価 ○リスク・コンプライアンス教育実施(トプコン部長・課長職対象) ○テーマ別コンプライアンス教育実施	○BCP行動計画の策定、経営層へ進捗報告実施 ○トプコン全部課長職を対象に実施 ○全対象者に実施	○BCPの見直し、BCP訓練の実施 ○リスク・コンプライアンス教育実施(トプコン部長職対象(継続実施)) ○テーマ別コンプライアンス教育実施(継続実施)
アクティビティ報告	社会への責任	○環境配慮・省資源型商品及び医療・健康・生活向上に有用な商品・サービスの提供 ○開発途上国等への国際ボランティア支援 ○医療・学術機関への支援(製品の寄贈、寄附講座開設)	○社会問題(温暖化、高齢化、資源枯渇)解決に有用な商品の提供  ○検眼活動への支援(スタッフ派遣、機器提供等)の実施 ○製品寄贈、寄附講座開設とも計画通り実施	○環境配慮・省資源型商品及び医療・健康・生活向上に有用な商品・サービスの提供(継続実施) ○国際ボランティア活動の継続実施 ○医療・学術機関への支援(製品の寄贈、寄附講座開設)(継続実施)
	環境マネジメント体制の強化	○環境監査対象範囲の拡大 グループ会社環境監査：8社	○環境監査対象範囲の拡大 グループ会社環境監査：8社	○環境監査対象範囲の拡大 グループ会社環境監査：10社
	環境に配慮した製品の提供	○環境調和型製品の提供 環境調和型製品販売比率：50%以上	○環境調和型製品の提供 環境調和型製品販売比率：57%	○環境調和型製品の提供 環境調和型製品販売比率：60%以上
	環境に配慮した業務プロセスの構築	○地球温暖化対策の推進(CO <sub>2</sub> 排出量削減) 排出量売上高原単位1990年度比：11%削減(10.76) ○資源の有効利用 排出物総量原単位2000年度比：19.4%削減(1.026) ○化学物質管理 第二種有機溶剤使用量：72%削減(3,335kg)	○地球温暖化対策の推進(CO <sub>2</sub> 排出量削減) 排出量売上高原単位1990年度比：13.7%削減(10.43) ○資源の有効利用 排出物総量原単位2000年度比：18.3%削減(1.040) ○化学物質管理 第二種有機溶剤使用量：78%削減(2,612kg)	○地球温暖化対策の推進(CO <sub>2</sub> 排出量削減) 排出量売上高原単位1990年度比：25%削減(9.06以下) ○資源の有効利用 排出物総量原単位2000年度比：20%削減(1.018以下) ○化学物質管理 第二種有機溶剤使用量：72.5%削減(3,275kg以下)
	環境コミュニケーションの推進	○行政・地域住民との連携強化	○地域環境教育プログラムの作成支援 ○地域環境イベントの企画、運営参画 ○トプコングリーンクリスマス開催、地域の防災活動へ協力	○行政・地域住民との連携強化
	お客様への責任	○市場の期待を先取りする商品の投入 ○グループ会社品質保証体制強化支援 ○設計品質向上のための市場品質重視対策、品質作り込み強化策の実施 ○顧客情報の可視化による上流ローディング推進	○TM-1活動*の推進による新商品開発と提供 ○グループ会社での総合品質保証体制の規定制定 ○上流でのツール/手法の活用推進を実施 ○顧客情報分析スピードを上げるしくみを構築	○TM-1活動の推進による新商品開発と提供(継続) ○グループ会社を含めた総合品質保証体制のレベルアップ ○上流での事前検証力強化と未然防止への取り組み ○顧客情報の迅速なフィードバック推進
	取引先への責任	○新製品部品RoHS調査システムの効果的運用	○適用除外製品まで含めた適合性調査推進	○RoHS調査システムの海外調達先への展開
	社員への責任	○健康診断結果に基づく予防措置(就業制限等)の実施  ○禁煙対策の実施(禁煙支援) ○安全配慮義務に関する管理者への教育実施	○健診結果と産業医のアドバイスを職場にフィードバック  ○禁煙講習実施、喫煙場所の限定(建屋内完全禁煙) ○管理者(全課長職)を対象に実施 ○パワーハラスメント防止規則制定	○健康診断、メンタル関連項目の拡充、診断結果に基づく予防措置(就業制限等)の実施 ○禁煙対策の実施(禁煙支援) ○安全配慮義務に関する管理者への教育実施 ○人材育成基本方針制定
	株主・投資家への責任	○株主・投資家への情報発信 Webサイト、会社案内の充実、IR説明会の実施	○情報発信実施 Webサイトに投資家向けページ更新、会社案内刷新、IR説明会の実施	○株主・投資家への情報発信強化 外部評価の維持、アナリストカバレッジ数の増加
	コミュニケーション	○トプコングループCSR報告書の発行 ○CSRグループ媒体(CSR INFO・LINK)発行 ○グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク分科会参加 ○トプコンWebサイトにおけるタイムリーな会社情報の開示	○トプコングループCSR報告書の発行(6月) ○CSRグループ媒体(CSR INFO・LINK)4回/年発行 ○GC-JN分科会への参加(CSR報告書研究分科会) ○環境情報の補足、地域貢献イベントの開催等情報開示 ○NPO法人とのコミュニケーション	○トプコングループCSR報告書の発行(継続) ○CSRグループ媒体(CSR INFO・LINK)発行(継続) ○GC-JN分科会への参加(CSR報告書研究分科会 他) ○トプコンWebサイトにおけるタイムリーな会社情報の開示 ○NPO法人と連携した社会貢献活動

(注)環境に関する目標・計画、実施事項の報告をより詳細におこなうため、「2009年度の主な目標・計画」欄は、昨年のCSR報告書でお伝えした内容と差異があります  
※TM-1(Time to Market No.1)活動とは、世界No.1商品を他社に先駆けて上市する活動です

CSR Committee委員長のコメント

■「CSRの取り組みと目標(抜粋)」は、2009年度活動結果の総覧であり、2009年度の目標に対する結果は、各項目に記載のとおりです。  
当初目標を達成した項目ばかりではなく、課題を残す項目もありますが、これらについては、2010年度の取り組みにつなげていく所存です。  
「CSRの取り組みと目標(抜粋)」は、リスク・コンプライアンス等の「マネジメント報告」と各ステークホルダー別の「アクティビティ報告」に区分していますが、それぞれの項目について考え方を補足します。

■「マネジメント報告」は、トプコングループの存在理念、存在の前提となる条件ともいべきコンプライアンス最優先を浸透させるテーマが主となっています。  
事業活動、意思決定時の絶対的価値観として、社員等がコンプライアンス最優先で判断できるような、「知識の蓄え」と「社会の求める変化に対応できる鋭敏な感受性の醸成」が主眼となっています。

■「アクティビティ報告」は、温暖化、資源枯渇、高齢化等、人類が直面している喫緊の課題に対し、「有用な商品の提供を通しての貢献」と「その商品のライフサイクルにおける環境負荷」について記載しています。

■その他、ステークホルダー別に目標、計画を記載していますが、「普遍的に取り組む視点」は、次のとおりです。

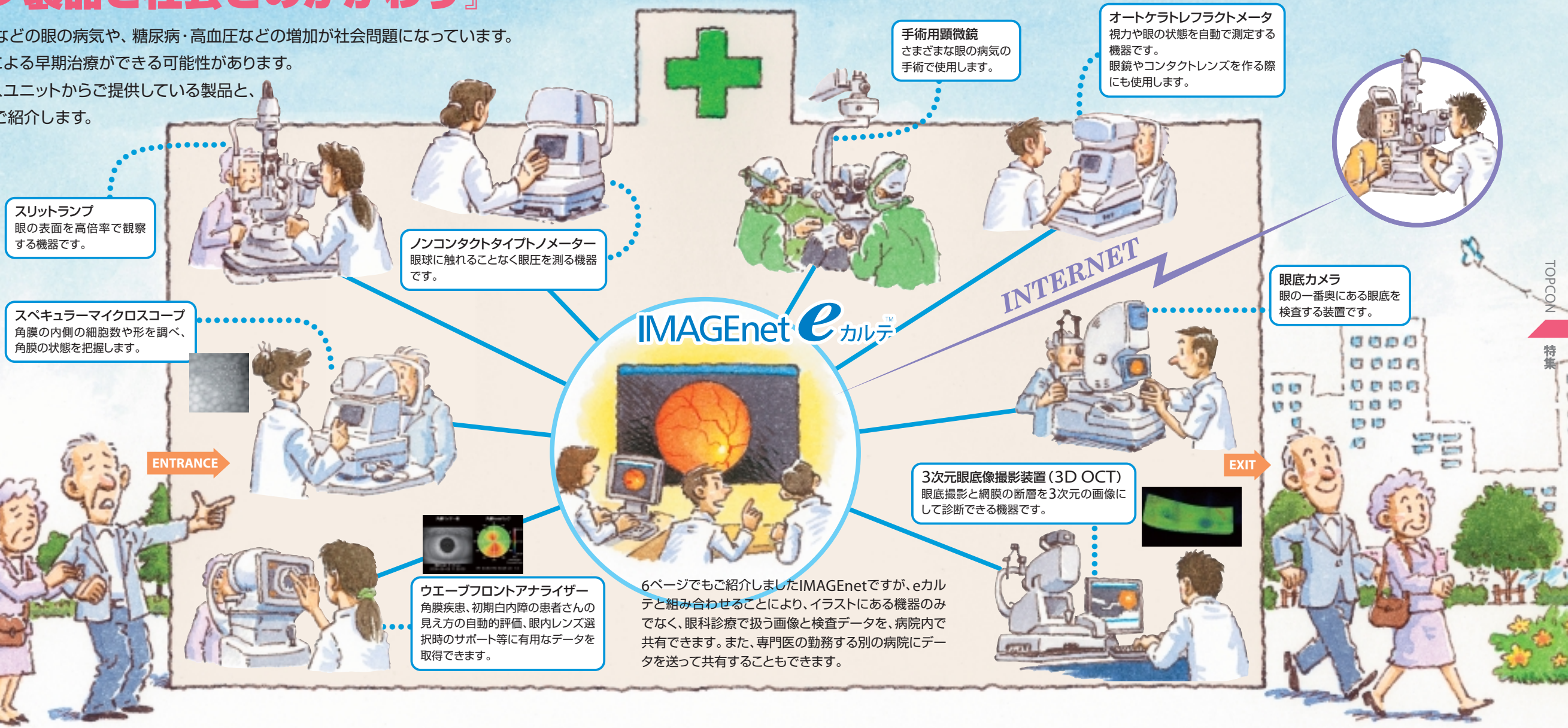
普遍的に取り組む視点	
お客様	多様化、高度化するマーケットニーズを先取り、開発・設計、製造、保守等、すべての段階で品質向上に最善を尽くし、信頼性の高い商品を提供し、お客様の事業を発展させる。
事業パートナー	代理店、取引先等の事業パートナーとの相互信頼とパートナーシップを尊重し、情報の共有と密接な連携により、共に事業を発展させる。
社員	多様な個性や価値観、創造と革新の精神を尊重し、その能力を最大限発揮できるようにする。 自由闊達な組織風土、人権に配慮した快適な職場環境を形成し、社員がトプコングループで働くことを誇りに思うような存在であり続ける。
国際・地域社会	国際・地域社会の一員として、人権・環境・労働・腐敗防止のグローバル基準を尊重し、持続可能なグローバル市場の構築に寄与する。 雇用の創出、適正な納税、有益な社会事業、環境保護活動をおこない、信頼と尊敬を受ける存在であり続ける。
株主・投資家	持続的成長、企業価値向上への取り組み、適時・適切な情報開示により、株主・投資家との信頼関係を形成、維持する。



# 特集『トプコン製品と社会とのかかわり』

高齢化や食生活の変化により緑内障などの眼の病気や、糖尿病・高血圧などの増加が社会問題になっています。これらは眼の診断により、早期発見による早期治療ができる可能性があります。ここでは特集としてアイケアビジネスユニットからご提供している製品と、皆さんの健康とのかかわりについてご紹介します。

皆さんが眼科を受診するのはどんな時でしょうか？眼の調子が悪い時、健康診断で、…色々な理由があるかと思います。アイケアビジネスユニットの製品は、右のイラストでご紹介するさまざまな場面で、眼の検査や診断に活用されています。トプコンは病気の早期発見・早期治療による眼の健康、体の健康に貢献します。



## 検査を受ける方、検査をおこなう方への配慮

### 検査時の負担を軽減

トプコンの製品は、装置の性能や検査をおこなう方の使いやすさを追求するだけでなく、検査を受ける方の負担軽減も考えています。例えば眼底の検査をする際、眼を散瞳状態にせず、またストロボ発光によるまぶしさを軽減して低光量での撮影を可能とした無散瞳眼底カメラを開発しています。また直接装置に顔が触れる部分は柔らかな曲線で構成し、ストレスを感じにくくしたり、まぶたの開きにくい方のサポートも容易にできるよう配慮しています。

### 早期発見・早期治療

トプコンでは眼底の更に奥の部位を3次元で観察可能とした3次元眼底像撮影装置の開発をおこないました。これにより眼底の表面だけでは判定できなかった、奥にある病巣も早期に発見可能となり、早期治療に大きく貢献しています。

アイケアビジネスユニットでは「健康で豊かな生活」「高度で検査効率の良い診療提供」「満足度の高い眼鏡の提供」といった皆さんのさまざまなビジョンをコネク特(結びつける)する製品を提供します。

## ただ見えるから更によく見える「Quality Of Vision」の追求

近視・遠視・乱視などに対する矯正の方法としてはメガネ・コンタクトレンズ等に加え、LASIKなどの矯正手術も増えています。また、高齢化社会において増加している白内障手術では、単に透明性を取り戻すだけでなく、見え方の質(Quality Of Vision)がより追求されるようになりました。手術後のQOV向上に貢献するために、新たな測定・解析を可能とするウェーブフロントアナライザーを開発しました。

## 微細な眼科手術を強力にサポートする手術用顕微鏡の開発

失明に直結する網膜はく離の手術は、高度なテクニックと経験が要求される難しい手術です。この手術の効率化を図るため、新しい照明方式により両手で手術ができる手術用顕微鏡を開発し、手術をおこなう医師の負担低減に貢献しています。

## 社会に有用な製品をつくる(社員インタビュー)

『私が管理しているアイケア製造部のOCTグループでは、3D OCTの組立と調整、最終検査、梱包までをおこなっています。』

2009年度は、世界的なOCTの需要拡大を受け、生産体制の見直しを急ピッチでおこないました。高度な製造技術を要求される高性能な機器であり、メンバーは常に細心の注意を払い品質確保に注力し、更に台数確保にも努力してくれました。

メンバー全員、「3D OCTが全世界で病気の早期発見等に活躍している」という製品に対する誇りをもって、日々業務をおこなっています。』



医科・眼鏡製造課長 戸賀さん

### 用語解説

- 緑内障：視野異常(視野欠損)を引き起こす進行性の病気で、日本における中途失明の一番の原因。早期発見による加療が重要。
- 白内障：眼の水晶体が濁り、物がかすんだりぼやけて見えるようになる眼の病気。手術で治る可能性が高い。
- 網膜：視覚的な映像を脳に伝える器官。カメラのフィルム部分に例えられる。はく離すると視力や視野を失う恐れがある。  
・糖尿病網膜症：糖尿病による高血糖状態により、眼球内の血流が障害され、網膜がダメージを受ける病気。視力低下や飛蚊症などの原因となる。  
・加齢黄斑変性症：網膜の中の黄斑部が障害を受ける病気。視野欠損や歪み、失明の原因となる。
- 眼底：眼球の深部。血管が露出している唯一の場所で、糖尿病や高血圧症などの血管に影響の出る内臓疾患の検査ができる。
- 眼圧：眼の中の圧力のこと。高い眼圧は視神経を犯し、視力低下や視野欠損の一因となる。
- 散瞳：瞳の拡大した状態。ピンボケや光をよりまぶしく感じたりする。無散瞳眼底カメラが出来るまで、目薬で散瞳状態にして眼底検査をおこなっていた。



# CSRマネジメント報告

ここでは、トップグループのCSRに関する活動報告をおこないます。

## ●● CSR月間行事の実施 ●●

2008年度まで、毎年6月を環境月間とし、環境教育をはじめ各種行事をおこなって社員の啓発に努めてきました。

2009年度からは6月をCSR月間とし、CSR教育の実施、CSR情報の発信等さまざまな行事をおこないました。

### 実施した主な行事

#### ●CSR月間に当たってのメッセージをグループ内に発信

- ・経営理念、行動基準との言行一致
- ・風通しの良い組織風土の醸成
- ・ワーク・ライフ・バランス、健康管理の重視について

#### ●地球環境会議開催

- ・環境保全推進実施報告
- ・環境マネジメントレビュー他

#### ●CSR・環境教育

- ・ISO14001に準拠した環境教育と合わせ、一般社員向けにCSR・環境教育を実施
- ・別途、管理職向けにCSRを含むリスク・コンプライアンス教育を実施

#### ●CSR報告書発行

- ・和文版、英文版を発行、Webサイトに掲載

#### ●その他

- ・排出物分別巡回指導などの環境に関する行事を実施

## ●● CSR情報発信によるCSR浸透 ●●

社内誌CSR INFO・LINKを発行し、CSR活動についての基本方針や実践情報を、国内外のグループ各拠点へ発信。CSRに関する価値観や活動情報の共有を図っています。2009年度は4号発行しました。

### 各号の主な掲載内容は以下の通り

- ・CSR経営遂行に向けての基本方針(社長メッセージ)
- ・CSR月間に当たってのCSR Committee委員長メッセージ
- ・パワーハラスメント防止規則制定
- ・トップコンと生物多様性



## ●● リスク・コンプライアンス ●●

### リスク・コンプライアンスへの取り組み

トップグループは、法令はもちろん、あらゆる社会・倫理規範を遵守し、公正な企業活動を通じて広く人類社会に貢献することを経営の理念としています。そのためコンプライアンスの観点から、役員・社員が共有すべき価値観や行動規範を定めた「トップコン事業行動基準」を制定し、トップコン本社だけでなく、海外を含めた全てのグループ会社がこれを採択してコンプライアンス意識の徹底を図っています。

また、2008年度に課長職を対象として実施したリスク・コンプライアンス教育に続いて、2009年度には部長職および新任課長職、合計100名に対しても同様の教育を実施するなど、組織の要となる管理職に対するリスク・コンプライアンス教育を継続的に実施しています。

このリスク・コンプライアンス教育の内容は、①グローバルな視点からみた法務リスク、②意思決定プロセス、リスク評価上の留意点、③安全健康基本方針、メンタルヘルスケア等について、知識のみならずトップグループの方針や仕組みの徹底を図るものです。

そのほか、法令違反や法的トラブルの未然防止を目的として、日常の業務に関連するリスク・コンプライアンス関連の事例紹介とわかりやすい解説などを定期的に、リスク・コンプライアンス掲示板に掲載し、一般社員のリスク・コンプライアンス意識とリーガルマインドの向上にも努めています。



管理職向けリスク・コンプライアンス教育

## ●● BCP (事業継続計画) の策定 ●●

新型インフルエンザの世界的大流行や大規模震災が発生した際に、対策が充分でないと長期にわたって事業が停止し、お客様はじめさまざまなステークホルダーの皆さんに多大な影響を与える恐れがあります。従来よりトップコンでは、社員とその家族の安全、地域の災害復興支援等に備え、防災計画を策定して来しました。

## ●● 内部統制に関する活動 ●●

法令を遵守し、誠実で透明性の高い経営の実現を目指し、内部統制に関する活動をおこないました。

## ●● 統制システムの強化とJ-SOX法への対応 ●●

トップコンは、内部統制システムの強化は経営の重要な責務であるとともに、企業目的達成のために積極的に活用すべきものであると認識しています。このような認識のもと、2006年5月に開催された取締役会において、会社法に基づき「業務の適正を確保するための体制」、即ち「内部統制システムの基本方針」に関する決議をおこない、この内容を「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」として東京証券取引所に報告しました。

これに伴い、トップグループ全体で内部統制システムの強化をするために、関係各社に対して職務執行の効率性の維持・向上、コンプライアンス、リスク管理等に関して具体的な支援をおこないました。更に、会計監査制度の充実と企業の内部統制整備を求めた金融商品取引法(J-SOX法)が2008年度決算から適用されたことに伴い、財務報告に係わる内部統制の有効性を客観的に評価する専門の組織を設置するとともに、国内外のトップグループ各社で対応体制を整備し、評価を実施しました。今後は、トップコンを含めグループ会社ごとに整備を強化してきた統制システムが、より適切に運用されるよう更なる体制の充実を進めるとともに、財務報告に係わる有効性評価を通じて、トップグループ全体の財務報告の信頼性の一層の向上を目指していきます。

こちらに加え、2008年より被災時の事業継続による製品・サービスなど重要業務の継続を念頭に、BCP策定に取り組んでいます。2009年度には重要業務の行動計画策定に取り組みました。

新型インフルエンザ(A/H1N1)発生の際にも新型インフルエンザ発生時向けのBCPを活用し、対応しました。

## ●●●●●● 内部通報制度運用 ●●●●●●

トップグループは、リスク・コンプライアンス情報(法令やトップコン事業行動基準等の社内規定で禁止されている行為がおこなわれている、またはその疑いがあるという情報)に接した社員等が、その情報を通常の職制を通じたルートとは別に、直接リスク担当部門に連絡できる内部通報制度を構築しています。

内部通報制度を利用した相談件数は、過去に4件(主な通報内容は「服務規律に関する違反」)ありましたが、2009年度は0件でした。

制度の周知・浸透を中心とした活動をおこない、問題の早期発見と適宜適切な対応をおこないます。

## ●●●●●● グループ内監査の実施 ●●●●●●

国内外のグループ会社35社を対象に、内部統制自己評価チェックリストによる監査をおこないました。

購買管理や資産管理、情報システム管理等の内部統制全体の整備状況は、2007年度より9%向上し、86%となりました。今後も、更なる内部統制の向上に向け、各社の内部統制改善に向けた指針情報を提供します。



# CSRマネジメント報告

## ●● グローバル企業としての輸出管理体制の強化 ●●

### 1. 『トプコン輸出管理プログラム』の改定

外為法と米国法等の法改正に合わせ、輸出管理の基本となる「トプコン輸出管理プログラム」と「米国製品・技術情報輸出管理プログラム」を整理・統合し、分かりやすく改定し、トプコンおよびグループ会社社員に周知・徹底しました。

### 2. グループ会社監査を実施

経済産業省が通知している「本社のグループ会社指導・支援」として、トプコン本社ではグループ会社に対して毎年監査を実施しています。2009年度は国内外5社に対して実施し、運用状況を確認しました。

## ●●●● 輸出管理体制の維持・向上 ●●●●

### 1. 輸出管理教育の実施

コンプライアンスマインド醸成のため、毎年新入社員や営業・技術部門や実務担当者に対して輸出管理教育をおこなっています。2009年度は、約300名を対象に、13回の輸出管理教育を部門別・階層別におこないました。

### 2. 輸出管理の専門家育成

輸出管理業務に従事する社員レベルを向上させるため、安全保障貿易情報センター(CISTEC)主催の「輸出管理認定試験」受験を推奨しています。2009年度は、11名が合格し、社内の有資格者は33名となりました。

### 3. 輸出管理推進会議

主要な国際動向およびトプコングループの輸出管理状況等の共有化を目的に、輸出管理部と関係部門との定期的な会議を実施しています。2009年度は、4回開催しました。



輸出管理推進会議の様子  
輸出管理の最新情報の提供と関連な意見交換ができました

## ●●●●● 情報セキュリティ強化 ●●●●●

不正アクセスや情報漏洩などを防ぐため、2009年度は、その誘因である「迷惑メール」と「危険なWebサイト」につき、「迷惑メールフィルタリング」と「Webサイトフィルタリング」の2システムで対策しました。これにより、着信メールの9割を占めた「迷惑メール」の隔離除去および「危険なWebサイト」の閲覧制限で、コンピュータウィルス感染／スパイウェア侵入の防御を図り、情報セキュリティの強化を実現しました。

## ●●●●● 情報セキュリティ講演会 ●●●●●

「情報セキュリティ事故事例から学ぶ対策と管理者の役割」と題し、社外の講師による情報セキュリティマネジメントに関する講演をおこないました。対象は部門の管理者等約75名。講演後、国内グループ会社に資料と講演内容に関するDVDを送り、共有を図りました。

## ●●●●● 情報セキュリティ教育 ●●●●●

国内のグループ社員を対象に、毎年情報セキュリティ教育(個人情報保護を含む)を実施しています。2009年度には10社(約2,200名)を対象に教育をおこない、受講率はほぼ100%でした。他に、情報セキュリティ/個人情報保護内部監査員養成のための教育をおこない、2009年度には新たにグループ会社の社員11名が資格を取得しました。



<http://www.topcon.co.jp/privacy/index.html>  
(個人情報保護方針)

# CSRアクティビティ報告

## 環境保全活動

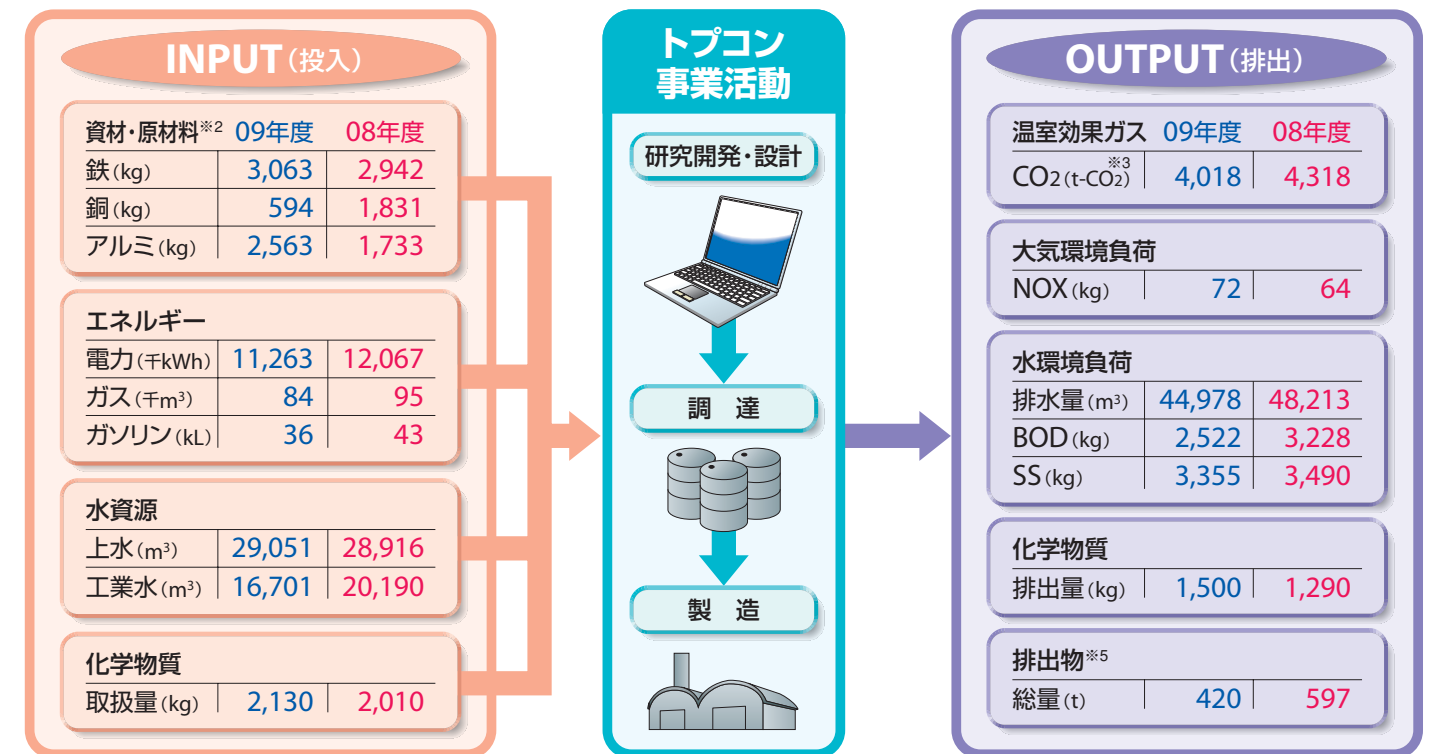
### トプコンの環境負荷(2009年度実績)

トプコンの製品開発・調達・製造など、事業活動に伴う環境負荷の主なものには、エネルギーの使用、水資源の使用、化学物質の使用、大気へCO<sub>2</sub>・排ガスの排出、下水道への排水放流、廃棄物の排出などがあります。

ここでは、これらの環境負荷データをINPUT、OUTPUTに分けて表記し、エネルギーや物質のバランスについて開示しています。

私たちは、さまざまな環境負荷を把握し、可能な限り低減するため

の具体的施策を実施することにより、環境にやさしい、より良い製品づくりを目指します。事業活動に伴う全エネルギー消費によるCO<sub>2</sub>排出量は4,018t-CO<sub>2</sub>でした。化学物質(東京都環境確保条例に基づく7物質)の使用による大気への放出は1,500kgでした。2009年度の環境負荷は前年に比べて、総じて10%~20%程の低減が図られました。

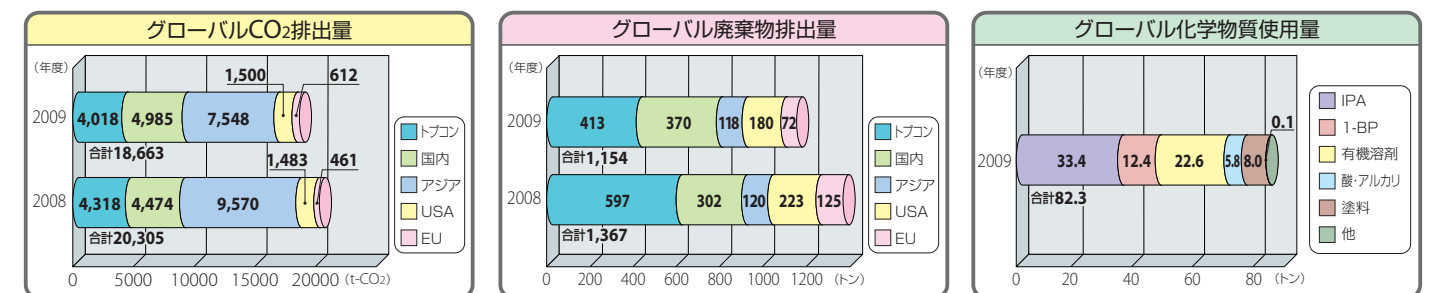


#### その他の環境情報

都市計画法の事業場：準工業地域  
用途地域名隣接地：準工業地域  
敷地面積：23,499㎡  
特定工場の規制：なし(東京都環境確保条例)  
排水放流先：下水道

ISO14001取得：1997年9月29日  
認証機関名：(株)日本環境認証機構  
主管及び部門名：総務・法務グループ 総務・CSR部  
環境保全専任者：4名

※1：トプコン本社工場での集計。各数値は実測値  
※2：資材・原材料の投入は社内加工品が対象  
※3：電力のCO<sub>2</sub>排出係数は最新の調整後排出係数を使用  
※4：排出物総量は削減対象外の品目も含む



### 2009年度トプコン環境教育実績

教育対象	教育内容	受講者数
一般社員	企業の社会的責任(CSR)、環境ボランティアプラン、環境目標など	927
部課長	環境管理全般、ISO14001、環境関連法令の動向など	303
有意な作業従事者	特定施設の運用・管理および環境影響、緊急時対応など	60
新入社員	地球環境問題、国内外法規制、ISO14001、環境方針など	24
職能別対象者	産業廃棄物管理票の運用、製品環境法規制最新動向	20
内部監査員	ISO14001規格、更新審査結果、環境関連法令動向など	16
合 計		1,350

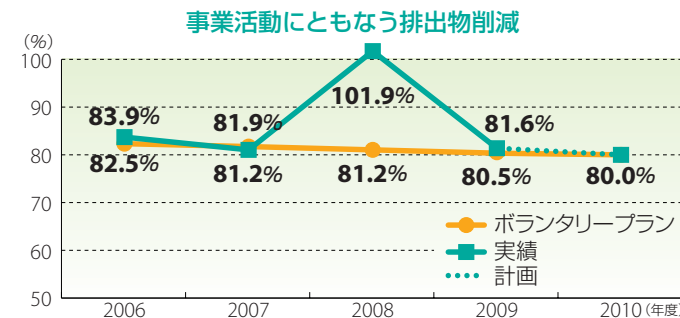
<http://www.topcon.co.jp/csr/index.html> (環境報告追加情報)



# CSRアクティビティ報告

## 資源の有効利用

トプコンの2009年度売上高原単位は、世界的経済不況が大きく影響し目標未達成となりました。管理値である排出総量では、前年実績値より約150t下回り、総量削減の取り組みは進みました。2010年度はボランタリープランの目標2000年度比売上高原単位20%減の1.018を目指します。

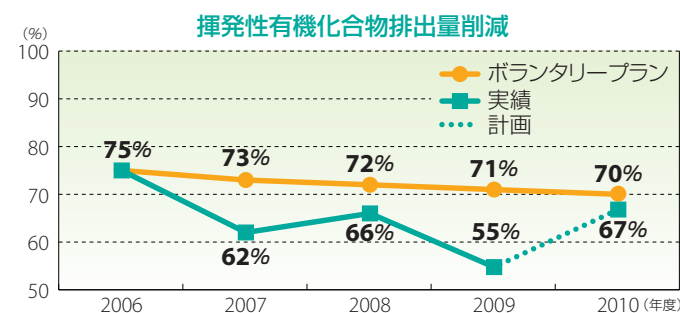


	2006実績	2007実績	2008実績	2009実績	2010計画
売上高原単位	1.070	1.035	1.298	1.040	1.018
排出量 (t)	528	538	550	400	442

下取り品などは除きます

## 化学物質の削減

トプコンの2009年度揮発性有機化合物 (VOC) 排出量削減は、既にボランタリープランの目標を達成していますが、化学物質管理委員会が中心となって、更なる削減活動に取り組んでいます。2010年度は生産量増大が予想されることから、連動しての増加を考慮し2008年度実績と同等を目標としました。

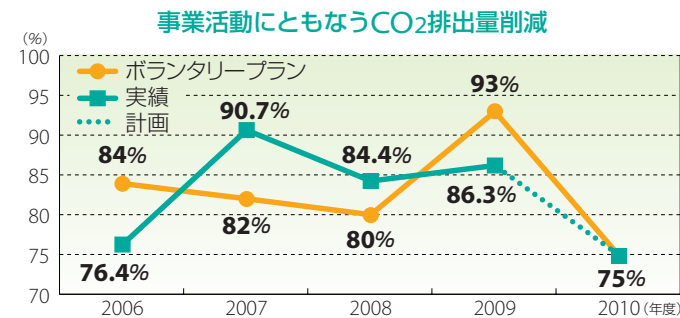


	2006実績	2007実績	2008実績	2009実績	2010計画
VOC排出量 (kg)	13,966	11,534	12,325	10,293	12,500

VOCには第二種有機溶剤と有害性の少ない有機溶剤が含まれます

## 地球温暖化の防止

トプコンのCO<sub>2</sub>排出は9割以上が電力使用によるものです。昨年度まではCO<sub>2</sub>排出係数を1990年度の値に固定して算出していましたが、東京電力が2008年度の調整後CO<sub>2</sub>排出係数を公表したのに合わせ、実質的なCO<sub>2</sub>排出量となるように算出方法を改めました。この算出方式でのボランタリープラン達成を目指します。



	2006実績	2007実績	2008実績	2009実績	2010計画
売上高原単位	9.23	10.96	10.20	10.43	9.06
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	4,556	5,698	4,318	4,018	3,931

### トプコングループのゼロエミッション達成状況

社名	達成時期
トプコン	2001年12月
トプコンサービス	2003年3月
オプトネクス本社	2006年1月
オプトネクス滝根工場	2007年5月
トプコン山形	2009年4月

<http://www.topcon.co.jp/invest/individual/environment/index.html>  
(環境への取り組み)

## 地球温暖化防止活動で受賞

トプコン山形では、地球温暖化防止委員会を設置して全社を挙げて省エネ活動に取り組んでいます。その一環として山形県で実施している夏冬のエコスタイルチャレンジに参加し、エコ通勤デーを設けてエコドライブ・公共交通機関・自転車・徒歩などでの通勤を呼びかけ、CO<sub>2</sub>削減および地球温暖化防止活動に取り組みました。その結果、2009年6月に優良事業所として表彰されました。今後も尚一層地球温暖化防止に努めます。



## グループ会社環境監査

トプコンではグループ環境保全活動向上のため、国内外の環境負荷が高い製造系グループ会社に対し年1回環境監査をおこない、指導・支援しています。2009年度は、トプコン山形、ソキア・トプコン(本社、松田事業所)、Topcon Positioning Systems, Inc.の3社に対しては訪問監査をおこない、オプトネクス(本社、滝根工場)、Topcon Europe B.V.グループ、Topcon Medical Systems, Inc.、Topcon Optical (Dongguan) Technology Ltd.、Topcon (Beijing) Opto-Electronics Corporationは書類審査にて実施しました。監査では、環境負荷が大きく環境事故につながる可能性のある施設・設備の管理状況を中心に、環境マネジメントシステム全般に対する評価をおこない、概ね一定の管理レベルが維持されている

ことを確認しました。更に、化学物質を取り扱う施設などについては、管理の向上につながる改善指導をおこないました。



## レンズ研磨剤の産学官共同リサイクル推進

オプトネクスは、眼鏡用ガラスレンズを生産し高いシェアを誇っています。ガラス研磨工程で使用する研磨剤には、資源枯渇が懸念される希少物質が含まれているため、廃研磨剤の再生利用について、福島県をはじめとした産学官共同研究に2008年度より参画しています。オプトネクスでは2009年度の取り組みとして、プロジェクトで開発した再生研磨剤を用いて研磨性能試験による評価をおこないました。その結果、実際の研磨工程で実用可能である事が確認できました。これにより廃棄物の減量化と資源の有効利用が実現できそうです。今後も検証評価を重ね、自社の研磨工程に留まることなく、産学官と協働を図りながら、業界全体における実用化を目指します。



酸化セリウム系ガラス研磨剤のリサイクルに関する研究  
研究成果普及講習会

## 地球温暖化の防止への取り組み

トプコングループで取り組んでいる地球温暖化防止策についていくつか紹介します。

### LED照明の採用

ショールームなどのダウンライトを次世代照明として有望視されているLED照明に切り替えました。事務所、工場で使用されている直管型蛍光灯については、性能向上、価格低下などの状況を見ながら、段階的に代替を進める予定です。



### グリーン電力の使用

トプコンで実施したクリスマスイベントで使用した電力(3,000kWh)には、すべてグリーン電力を使用し、来客者には省エネの啓発をおこないました。



### チャレンジ25キャンペーンへの参加

チームマイナス6%がチャレンジ25キャンペーンに引き継がれたことを受け、トプコングループとしてチャレンジャー登録しました。



## 環境保全活動

## トプコンISO更新審査

2009年7月22日から24日までの3日間にわたり、ISO14001の更新審査がおこなわれました。1997年9月にISO14001認証取得以来4度目の更新審査となりました。更新審査の結果、組織のマネジメントシステムは規格の要求事項に適合し、有効に実施されていると判断いただき、認証継続となりました。審査所見として、不適合の指摘は1件もありませんでしたが、文書管理などについて細かい改善の余地9件の提案を受けました。



ISO更新審査  
オープニング

## トプコングループと生物多様性保全

(社内誌CSR INFO・LINK No.5より抜粋)

企業における環境活動は、環境基準の遵守、人の健康に対する配慮が中心でした。しかし、その活動はすべて生態系への配慮となっています。トプコングループの企業活動では動植物の乱獲や外来種の導入などと直接の関連はあまりありませんが、図に示す通りすべての環境問題は生物の生息域の破壊につながっています。国際生物多様性年を迎え、トプコングループでも地球温暖化防止に次ぐ重要な活動として生物多様性保全に取り組めます。具体的な活動は従来から取り組んできた環境活動の継続ですが、生物多様性を意識して環境活動に取り組めます。





### 製品法規制対応のグローバル化



注)トプコン製品は米国・中国等のグループ会社からも全世界に出荷され、グループ・グローバルの対応をしています



製品への適合マーク貼付状況

- ★製品環境法規制 (省エネ・有害化学物質の含有禁止等) ▶ 規制が各国でグレードアップ
- ★製品安全法規制+製品環境法規制 ▶ もれなく対応が必要
- ★CEマーク=従来の製品安全に製品環境の要素が加わる

#### 用語解説

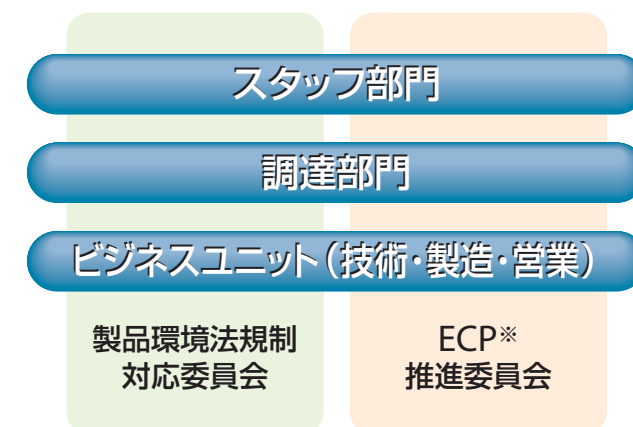
<b>製品法規制</b>	電気安全(漏電)、漏洩電磁波、省エネ、製品含有の有害物質など製品に関する法規制の総称	<b>CEC規制</b>	米カリフォルニア州エネルギー局が定めた電気・電子機器の省エネ規制。EnergyStarに準拠。外部電源にIV、Vマーク表示。
<b>RoHS指令</b>	電気・電子製品への有害化学物質(鉛・水銀・カドミウム・6価クロム、臭素系難燃剤2種)含有を禁止したEUの規制。2006年7月施行。CEマーク表示が義務付けられる予定。	<b>EnergyStar</b>	米環境保護局が定めた電気・電子機器に関する省エネ規格。
<b>WEEE指令</b>	電気・電子製品のリサイクルを義務付けたEUの規制。パケツマーク表示。2005年8月施行。	<b>FCC規制</b>	米連邦通信委員会が定めた電磁波など無線機器に関する規制。FCCマーク表示。
<b>ErP指令</b>	省エネなど製品のエコデザインを義務付けたEU指令。2005年8月施行。CEマーク表示。	<b>中国版RoHS</b>	RoHS指令の中国版。現段階では表示義務のみ。環境保護使用期限マーク表示。
<b>REACH 規則</b>	化学物質の登録・評価・規制に関するEUの規則。2007年6月施行。	<b>韓国製品安全</b>	電機・電子機器の電磁波に関する規制。KCマーク表示。
<b>CEマーク</b>	製品安全に関するEU指令の要求事項を満たしていることを保証するマーク。製品環境に関するEU指令も取り込まれるようになった。	<b>JAMP</b>	アーティクルマネジメント推進協議会の略。サプライチェーン全体での物質情報流通のしくみをアジア各地で普及・推進中。
		<b>AIS</b>	JAMPが提唱する物質情報フォーマット。

### 委員会活動 + コンプライアンス調達による製品法規制対応

#### 委員会活動

(組織横断で委員会を構成し、毎月1回合同委員会開催。  
平均出席者数 15名/月)

#### トプコン環境保全組織の目的別委員会として設置



※ECPは (Environmentally Conscious Product) の略で、環境調和型製品のことです。ECPについてはWebサイトで紹介しています

[http://www.topcon.co.jp/csr/add\\_ecp.html](http://www.topcon.co.jp/csr/add_ecp.html) (環境調和型製品 (ECP) への取り組み)

<http://www.topcon.co.jp/invest/individual/environment/index.html> (環境への取り組み)

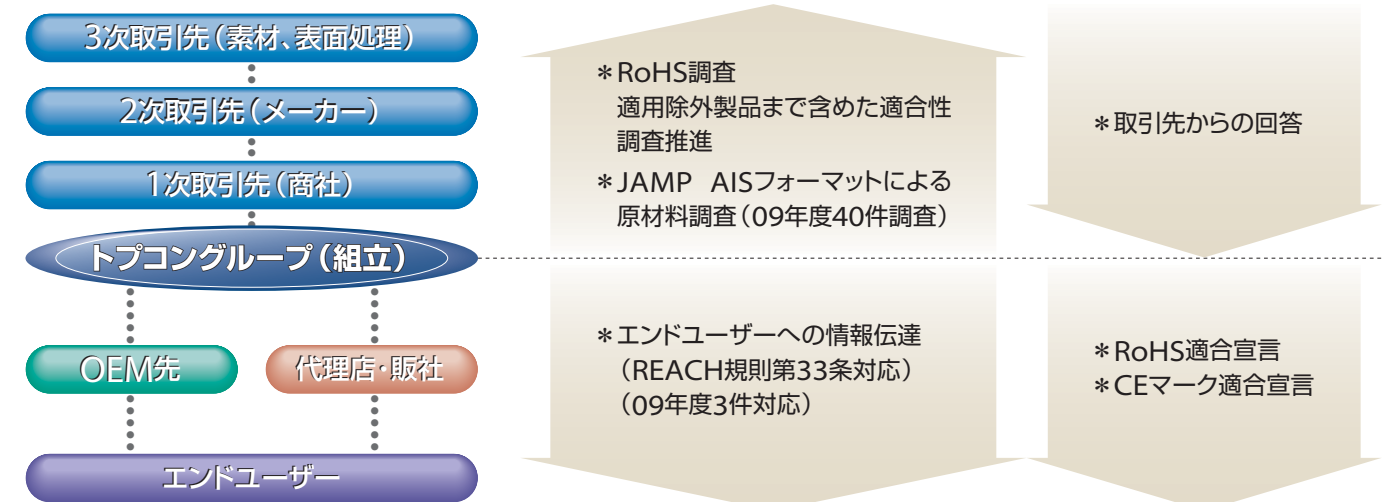
#### 製品環境法規制対応委員会 (トプコングループのグローバルな製品法規制対応活動実績)

- 1) 情報収集 (月平均2件発表)
- 2) 法規制対応 (グループ会社RoHS対応推進、海外グループ会社情報交換、REACH原材料調査、取引先RoHS監査、海外調達先セルフチェック、ErP指令対応、蛍光X線分析)
- 3) 製品含有化学物質管理内部監査実施 (各ビジネスユニット、調達部門の遵法チェック)
- 4) 海外グループ会社製品法規制対応 (現地訪問監査実施)

#### ECP推進委員会 (ECPアセスメント推進実績)

- 1) ECPの販売比率向上 (10年度で60%達成見込)
- 2) ECPアセスメント実施記録の改訂推進
- 3) 省エネ効率の向上推進

### コンプライアンス調達 (サプライチェーン全体での有害化学物質管理体制) (RoHS指令、REACH規則対応)



#### 海外グループ会社の製品法規制対応支援 (米国Topcon Positioning Systems, Inc. 環境監査報告)

グローバルな環境保全活動展開の一環として、国内外のグループ会社に対して、現地訪問による環境監査を2009年度も継続しておこないました。特にTPS社はGPS、MC (マシンコントロール) 製品を自社開発し、欧州への輸出もおこなっていますので、各製品担当のプロダクトマネージャーと、最新の製品環境法規制に関する情報や、遵法状況について意見を交わしました。





トプコングループで実施した、企業活動を通じたグループ・グローバルな活動の一部をご紹介します。

### 環境負荷低減への支援

ドイツにあるグループ会社 (Topcon Deutschland G.m.b.H) では、建設機械操縦者向けの講習会に協賛し、講師の派遣やマシンコントロールシステム (GPS、レーザー付属) を無償で提供しました。マシンコントロールシステム普及による作業効率向上、省資源による環境負荷低減に貢献します。



### 社員の社会貢献を支援

アメリカにあるグループ会社 Topcon Positioning Systems, Inc. では、会社をあげて社員の社会貢献活動を支援し、就業時間内の活動を認めています。例えば地区担当マネージャーの Brian Fisher さんは M.O.M organization (Men On a Mission : 自分の時間を提供し、労力や技能等を、世界各国の他者の生活環境改善に活かす活動) で、ケニアの学校設備建築に参加しました。



重要なステークホルダーである地域の皆さんへの活動として、以下の取り組みをおこないました。ここではその一部を紹介します。



会社の仕組みが良く分かりました。



訓練へのご協力ありがとうございました。



大学生や高校生、中学生による工場見学、職場体験 (トプコン、トプコン山形、オプトネクスス)



地域自治会主催の防災訓練、廃棄物の分別回収などへ敷地提供 (トプコン、トプコン山形、ソキア・トプコン)

### 眼科検診への協賛

アメリカにあるグループ会社 Topcon Medical Systems, Inc. はアメリカでも著名な2つのチャリティーである One Sight と Friends for Life に協賛し、スタッフ派遣や検眼・検診機器の提供をおこないました。



One Sight  
Luxottica社が主催する恵まれない子供達に対する無償の検眼・眼鏡提供活動



Friends for Life  
糖尿病を持った子供達に対する無償の眼科検診活動

### 震災への募金

Topcon Optical ( Dongguan ) Technology Ltd. では、2010年4月、中華人民共和国で発生した青海地震に対し、義援金として会社より30,000元、社員より14,700元を募金しました。



### 学術への支援

大学の土・測量実習のカリキュラムに対する支援として、ソキア・トプコン研修施設の設備・資機材を提供しました。2009年度には3つの大学、100名を超える学生に対し、延べ2週間にわたりソキアスクールがサポートをおこなっていました。



(ソキア・トプコン)

### 子供達の笑顔のために (社員インタビュー)

『2006年の10月頃、初めて地域の子供達向けクリスマスイベントへの協力依頼がありました。当初は本当に子供達は来てくれるのかしら・・・と少々不安でしたが依頼されたプレゼントの手配も済み、当日の運営に参加したところ、何と800人近い方に来場いただきました。プレゼントをお渡しする担当でしたので、直接子供達と触れ合う機会があり、みんなの満面の笑みが忘れられません。以降毎年参加をしていますが2009年には1,200名を超える方に来ていただきました。子供達の笑顔のため、今後も参加し続けていきたいと思っています。』



トプコンジーエス 長井さん (右側)



トプコングループの強みは、性別、国籍、年齢等、一人ひとりが異なる価値観や個性を持った集合体であることです。その強みを生かすために、社員とのコミュニケーションを大切に、多様な価値観や個性、創造と革新の精神を尊重し、その能力を最大限発揮できるように努めます。

トプコングループの存在理念を共有し、自由闊達な組織風土、人権に配慮した快適な職場環境を形成し、社員がトプコングループで働くことを誇りに思うような存在であり続けます。

### ●パワーハラスメント防止規則の制定

パワーハラスメントについて、会社の基本的考え方と対応方針を明確化するため、規則を制定し、趣旨を社内誌CSR INFO・LINKに掲載し、全グループ社員に宣言しました。

会社を構成する社員、その他すべてのステークホルダーとの関係で、パワーハラスメント行為がおこなわれることを防止し、働きやすい職場環境を形成していく趣旨です。規則には、相談等の対応窓口、管理職の責務等について、具体的に定めています。

パワーハラスメントには法令上の定義はありません

が、本規則では、「職権などを背景に本来の業務の範疇を超えて、継続的に人格・尊厳を侵害する言動をおこない、就業者の働く環境を悪化させること等」としています。

客観的に見て実現不可能な目標設定、業務上必要のない指導、業務の範囲を超えて強く叱責するような場合、或いは些細なミスでも執拗に叱責する場合などは、対象となります。

たとえ、指示・指導が適切であっても、発言内容、やり方、場所が不適切であった場合にも適用します。

### ●多様な働き方の支援

トプコングループは、年齢や性別にかかわらず社員をその職務能力や成果に応じて公正に評価し、適正な処遇をおこなう人事制度の構築・整備に取り組んできました。

近年では、社員個々の多様化するライフステージに対応するため、様々な勤務支援制度の充実を図ってきました。

2歳に達する月末までの育児休業だけでなく、小学校3年まで活用できる短時間勤務制度や子供の看護休暇制度など両立支援やワーク・ライフ・バランスの実現などにも取り組んでいます。

また、社員個人の意欲を尊重し、創造性・専門性を最大限に活用するため、適材適所の配置をおこなうだけでなく、社員の意欲を尊重することが重要と考えています。トプコンではFA（フリーエージェント）制度や社内公募制度などを整備し、働く意欲を喚起する環境づくりに取り組んでいます。

障がいを持った社員には、障がいの程度に応じた職域の設定、スロープの設置等の生活インフラ整備、通勤手段への配慮など、能力を最大限発揮できる環境を整えています。2009年度の障がい者雇用率は1.34%（2008年度：1.48%）でした。

### 各種制度の利用状況（トプコン）

制度の名称	休業期限	2007年	2008年	2009年
育 児 休 業	子が満2歳に到達する月末まで	6人	10人	15人
短時間勤務	子が小学校3年を修了するまで	13人	13人	12人
介 護 休 業	1年	0人	1人	1人
再雇用制度	定年者の再雇用	22人	15人	18人

### ●トプコングループ人財育成基本方針

トプコングループが有する人財育成の基本方針をあらためて明確にし、グループ社員全員と価値観を共有する趣旨で、2010年4月、「トプコングループ人財育成基本方針」を策定しました。今後、人財育成に関するすべての施策は、この基本方針に基づき実施していきます。

1. トプコングループは、人財こそが、最も大切な資産であると位置づけ、多様な属性を有する社員に能力伸長と自己実現の機会を提供し、その資質を最大限に発揮させます。
2. トプコングループは、専門性を有する人財、グローバル性を有する人財\*を計画的に育成します。
3. トプコングループは、期待する人財像（行動特性&価値観）を明確にし、全社員と認識を共有します。
4. トプコングループ各社は、人財育成基本方針に準拠し、自社の業態・規模等にマッチした人財育成体系及び具体的計画を策定し、社員に周知するとともに、これを実行します。

\*グローバル性を有する人財

トプコングループの経営理念を共有し、異文化を受容しながら、すべてのステークホルダーと直接的なコミュニケーションがとれ、業務を遂行できる人財

### 労組情報

名 称：トプコン労働組合

代 表 者：執行委員長 田澤 明智

結 成：1946年（昭和21年）1月29日

形 態：独立企業内労働組合

組合員情報：（2010年4月1日現在）

- 1) 組合員数：869名（男性737名、女性132名）
- 2) 平均年齢：37.9歳（男性38.3歳、女性35.0歳）
- 3) 平均勤続年数：14.7年

（男性15.0年、女性12.8年）

加 入 資 格：原則主任以下の正社員

加 入 形 態：ユニオンショップ

（正社員登用と同時に一律加入）

役 員 情 報：執行委員長、副執行委員長、

書記長、執行委員4名、会計監査2名

任期：1年（非専従）

加 盟 団 体：光学労協、トプコン関連労協

（いずれも協議会形態）

### 労組委員長インタビュー

『2009年度は、100年に一度の経済危機といわれる世界的不況の影響を受け会社業績が大きく低迷するなど、大変厳しい状況下での活動となりましたが、運動の基本方針に基づき、また、いかなる時代においても組合員の生活水準・労働環境を力強く支援できる労働組合を目指し1年間活動してきました。特に2009年度は「会社業績の早期回復」「雇用の維持・確保」に加え、「ワーク・ライフ・バランス」への取り組みを労使一体となって優先的に且つ積極的に取り組みました。2010年度も引き続き、会社ステークホルダーである「社員」を代表する組織としてCSR活動を重要な活動と位置づけ、邁進していきたいと思います。』



執行委員のみなさん



### ●喫煙対策

喫煙対策はハード面とソフト面でそれぞれ対策を講じています。

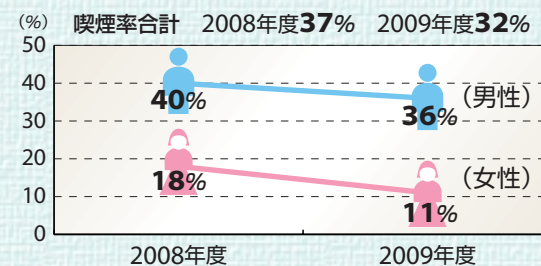
ハード面では屋外及び屋上に喫煙場所を整備し、2009年4月からは建屋内を全面禁煙としました。国内グループ会社についても同様の措置を講じ、副流煙による健康被害防止を図りました。

ソフト面では健康診断受診時に喫煙者に対し喫煙による健康被害について書かれたパンフレットを配布したり、新入社員研修時に喫煙による健康被害についての講義をしたり、禁煙の意思はあるものの禁煙できない社員を対象に禁煙セミナーを開催したりと、禁煙に向けた様々な活動を実施しています。

トプコンの喫煙率は減少傾向にあります。2011年度までの喫煙率目標を設け、その達成に向け禁煙活動を推進しています。



屋上の喫煙所の様子



### ●健康管理

■全員が明るく元気な状態で働き、個々人が持っているポテンシャルを最大限発揮できるよう、社員の健康管理に取り組んでいます。

定期健康診断では、診断後の健康指導に力を入れています。健康上のリスクが高い社員に対しては高負荷勤務を制限したり、産業医や保健師との面談を実施し、健康状態に応じたアドバイスをしています。社員の健康状態は健康管理システムで一元管理し、適切な指導をするために有効活用しています。また、社員食堂においてバランスの良い健康志向メニューを提供するように食堂業者と連携を図ったり、誰でも使える血圧計を構内に設置したり、運動部員が講師となって「ストレッチ・テーピングセミナー」を開催したりと、健康に関心を持ってもらえるように様々な施策を講じています。



■メンタルヘルス対策は、新たな発症者を出さないように①管理者に対して、部下の変調の早い段階での気づき方や会社が負うべき安全配慮義務についての教育、②新入社員に対しては相談の仕方などの教育を実施しています。

休業者に対しては「職場復帰プログラム」に基づき、上長や人事部門に加え、家族や主治医とも連携し、スムーズに職場復帰できるように支援をおこなっています。

■風通しの良い組織風土づくりの一環として、金曜日の定時後に社員食堂において、安価で利用できるパブの営業を開始しました。組織内外の人とのコミュニケーションの場として多くの方が利用し、心身のリフレッシュに一役買っています。



パブの様子／多い時で100名以上の社員が訪れます

ストレッチ・テーピングセミナー

### ●労働災害防止に向けた取り組み

トプコングループ安全健康基本方針では、「業務に起因する災害や疾病の撲滅ならびにこれらを誘発するリスクの低減」を定めています。2009年度は、事故が起きた際に作成する「事故報告書」の様式を改め、徹底的に原因分析し、再発防止策を確実に講じるようにしました。更に、事故が発生した場合は、「事故報告書」を安全衛生データベース上に開示し、事故の状況から再発防止策までを社員全員が情報共有できるようにしました。

安全衛生委員会や産業医による定期的な職場巡視では、リスクを早期に発見し、対策を指導する

ことで事故の未然防止を図っています。

2009年度は、不休業災害が1件発生しました(\*)。この事例は、ホットメルト装置を用いた接着作業中に、接着剤があふれ出し3度の火傷を負ったものです。休業災害は発生しませんでした。2008年度には階段での転倒事故(休業)が発生しましたので、段差のリスクを意識した取り組みをおこなっていきます。

2009年度の連続無災害時間、強度率、度数率等の結果は次のとおりです。

(\*)トプコン本社だけの情報です。

(2009年度)

		トプコン	製造業平均 2008年度/1,000人以上	全産業平均 2008年度/1,000人以上
連続無災害記録	死亡災害、休業1日以上災害発生が無い期間	累計302万時間	—	—
労働災害の強度率 (休業1日以上)	災害の重さの程度	0.00%	0.01%	0.01%
労働災害の度数率 (休業1日以上)	100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数	0.00%	0.26%	0.55%
年千人率 (休業4日以上)	労働者1,000人当たり1年間に発生する死傷者数	0.00%	3.00%	2.30%

### ●安全衛生データベースの紹介

安全衛生に関する様々な活動内容は社内LAN上に「安全衛生データベース」を開示し、社内のみならず国内グループ会社の全ての人に開示することで、情報の共有化を図っています。

安全・安心で快適な職場環境の実現や心身の健康維持・増進のためには、皆が安全や健康に関心を

持ってもらうことが重要と考え、安全衛生委員会の議事録などのように社員全員に周知させることが法律で定められている情報はもとより、方針・計画から世間一般の事故事例まで幅広い内容を掲載しています。タイムリーな更新により情報鮮度にも注意を払っています。

#### 安全衛生データベース

1. トプコングループの方針・ガイドライン等
  - ①トプコングループ安全健康基本方針
  - ②その他ガイドライン
2. 安全衛生活動方針・計画
  - ①安全衛生活動方針
  - ②安全衛生年間計画
3. 中央安全衛生委員会から社員の皆様へ
  - ①議事録(安衛法で社員への周知が義務付けられています)
  - ②安全衛生関係社内行事
  - ③安全衛生教材

4. 災害防止活動
  - ①ヒヤリ・ハット
  - ②無災害時間
  - ③労災事故事例
5. 健康管理・健康増進
  - ①メンタルヘルス
  - ②健康増進
6. 安全衛生関連規定・関連法令等
  - ①社内規定
  - ②関連法令集
  - ③安全衛生に関するニュース・トピックス
7. 産業医からのお知らせコーナー



# CSRアクティビティ報告

## お客様、取引先への責任

### 品質向上活動

毎年11月は品質月間として社員の「品質優先」意識を高揚させ、「より高いレベル」到達への啓発活動実施を目的に、各種行事を展開しています。

2009年度は「根幹からの品質改革～今、あなたにとって品質は？～」をテーマに、複数の新規行事を追加し、実施しました。それは技術部門を対象とした品質フォーラム、品質改革の先進企業のベンチマークのポスターセッション、講演会です。

### 【品質フォーラム】

設計品質向上をテーマにセッション1ではポジショニング・アイケア・ファインテックの各ビジネスユニットが抱える品質課題の共有と課題解決に向けたオープンディスカッションをおこないました。

セッション2では品質工学を中心に、セミナーと社内適用事例の検討をおこないました。

両セッションとも、ビジネスユニットの製品開発に携わる部門管理者を中心に、有益な議論をおこなうことができました。



### 【ポスターセッション】

3つのビジネスユニットと部品製造部門の品質改善事例発表に加え、電機メーカー・自動車メーカー等の品質改革手法、改革活動をベンチマークし、発表しました。



### 【講演会】

経営やビジネスユニットの責任者、課長等の各々の視点からの品質改革アクションに対する意識を高める目的で、品質に関する社外コンサルタントを招き、「上流からの品質改革」をテーマとした講演会をおこないました。



今後も、品質改革のための施策を展開し、製品の品質向上によるお客様の満足度向上に取り組んでいきます。

<http://www.topcon.co.jp/corporate/quality.html>  
(品質保証活動)

### 中国サプライヤー合同展示会の開催

トプコングループではお取引先を決定する際、品質・価格・納期の確実性、技術水準、経営の安定性及び環境への配慮等を確認し、総合的かつ客観的な評価と手続きに基づいて決定しています。

近年、部材の調達先をグローバルに展開していく中、特に国際競争力を増してきている中国サプライヤーからの調達は、欠かせないものとなってきました。しかし海外

のサプライヤーということもあり、まだまだ社内的な認知度は高いとは言えませんでした。



そこで2010年1月に初めての試みである「中国サプライヤー合同展示会」を開催し、中国製部材調達をアピールしました。当日は社内の会場を「機械加工」「電気組立」「光学の成形」の3つのゾーンに分け、出展社22社の社員による説明、企業情報(所在地、社員数、生産能力など)やセールスポイント紹介パネルの掲示、トプコン製品への採用状況、事例紹介をおこない、設計・技術系社員をはじめ300名近くが来場しました。

来場者からは「サプライヤーのことが良く分かり有意義でした」、出展社側からも「取引につながる話ができました」等好意的な声が多数寄せられました。

来場者や出展社のほとんどから、展示会継続への要望があったため、次回開催の時期や内容について検討していきます。

<http://www.topcon.co.jp/material/index.html>  
(資材基本方針)

# 第三者意見

特定非営利活動法人  
循環型社会研究会

代表 山口 民雄



循環型社会研究会

次世代に継承すべき自然生態系と調和した社会の在り方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践を行うことを目的とする市民団体。

URL:<http://www.nord-ise.com/junkan/>

報告書の評価は、さまざまな評価ポイントにどれだけ応えられているかという完成度が一般的です。私はこうした評価とともに、社会の要請に対応するため毎年どのように報告書を継続的に改善しているか、という点も重要な評価であると思います。しかしながら、こうした評価は、数年にわたって同企業の報告書をウォッチしなければならないため、報告書の表彰制度などに取り入れることができないのが現実です。

幸い、私は本報告書の2007年版から第三者意見を担当させていただき、毎年、意見交換もしてきておりますので、その改善の推移について把握しております。この間、ご担当者各位の努力とともに、毎年の意見交換会での意見を可能な限り編集方針に反映され、毎年着実に報告スタイル、内容を改善してきており、高く評価できます。本報告書も例外ではありません。

本報告書について、特に評価できる点は、1) Webサイトとの連動、2) 社会的な課題を意識した記載、3) CSR Committee委員長のコメント、などをあげることができます。

1)は、これまで方針や基準、制度の紹介で紙面が少なからず割かれていましたが、今回は限られた紙面を活動報告に充てるためにこれらをWebサイトに移行しています。報告書の中核は当該年度の活動報告であるべきで、賢明な選択であったと思います。ただ、今後は、活動に対する評価、顕在化した課題、次年度以降の課題解決に向けた施策などPDCAを意識した記載を心がけてください。

2)は、CSRが「社会的課題を本業を通して解決に寄与する」ということに収れんしつつある今日、非常に重要な視点です。特集や3事業の紹介においてもこの視点が貫かれており、“広告臭”が払拭され、CSR報告書にふさわしい記載になっています。3)については、当然あるべき記載なのですが、現実の報告書では多数ではありません。今回のコメントはCSR報告を理解する上で大変有益でしたが、今後は「活動総括」に力点を置いたコメントをいただきたいと思います。

他に次年度以降に期待することも少なくありません。その筆頭は、海外売上高比率73%、海外従業員比率53%というグローバル企業にふさわしい記載です。確かに昨年から、CSRの浸透、化学物質使用量、製品法規制対応、人材育成基本方針などの海外関連情報が追加されていますが、依然として少ないと言わざるを得ません。

グローバル企業の報告書として進化していくためには、まず、グローバルな情報収集システムを確立し、目標も国内だけでなく海外も設定することです。当面は環境、労働災害、人材について着手していただきたいと思います。また、最近では、海外パートナー工場での労働環境、拠点工場での待遇などの問題が顕在化してきています。そのため、日本企業においても労働環境について改めて調査する企業が相次いでいます。これまでは、スポーツ用品やゲーム関係の報告書ではこうした調査に関する記載がありましたが、今後は他の業種でも期待されることだと思いますので、この点に留意ください。

### 第三者意見を受けて

山口様からは、第三者としてのお立場から、毎回、CSR経営の本質を突いたご指摘、ご提言を頂戴しております。この報告書に対する「第三者意見」は、ステークホルダーの皆さんとのコミュニケーションを検証し、CSR経営の到達点を振り返る、いわば通信簿です。幸い、山口様の次年度以降に向けたコメントは、私の認識している課題と同じもので

した。トプコングループのCSR経営が更に高い次元に向かうための道標、そして励ましと受け止め、自信を持って前進してまいります。

TOPCON CSR Committee  
委員長 宮脇 裕正



## アンケート

このたびは『トプコングループCSR報告書2010』をご覧いただき、誠に有難うございました。  
皆様のご意見、ご感想を伺えれば幸甚にございます。

FAX: (03)3558-0705

(株)トプコン TOPCON CSR Committee事務局 (総務・CSR部 内)

### Q1. 主にどのような立場でご覧になりましたか？

- ☐ お客様 ☐ お取引先 ☐ 株主・投資家 ☐ 会社付近にお住まいの方 ☐ 学生 ☐ 企業、団体  
☐ NPO ☐ 大学、研究開発機関 ☐ 小・中・高等学校関係 ☐ 報道機関 ☐ 行政機関  
☐ トプコングループの社員または家族(退職された方も含む)  
☐ その他( )

### Q2. 年齢、性別についてお教え下さい

- ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代 ☐ 80代以上  
☐ 男性 ☐ 女性

### Q3. 本報告書全体についてのご意見をお聞かせ下さい

- わかりやすい ☐ 普通 ☐ わかりづらい ☐

### Q4. 各項目について、各々の満足度と感想をお聞かせ下さい

項 目	内容の満足度はいかがでしたか？	ご感想
●会社概要	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●トプコングループ	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●財務情報	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●編集方針	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●トップメッセージ	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●国連グローバル・コンパクト	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●CSR基本方針 他	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●事業紹介	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●CSRの取り組みと目標(抜粋)	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●トプコン製品と社会とのかかわり	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●CSR月間行事 他	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●リスク・コンプライアンス	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●BCP(事業継続計画)の策定	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●内部統制に関する活動	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●環境保全活動	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●社会貢献情報	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●社員への責任	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●お客様・取引先への責任	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●第三者意見	1. 満足 2. 普通 3. 不満	
●第三者意見を受けて	1. 満足 2. 普通 3. 不満	

### Q5. 本書をご覧になりまして、トプコンのCSR活動をどの様に評価されましたか？

- ☐ 非常に評価できる ☐ 評価できる ☐ 普通 ☐ あまり評価できない ☐ 全く評価できない

### Q6. その他ご意見やご要望などございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力有難うございました。



[TopPage](#) > 会社情報 / 会社概要

## 会社概要

商号:	株式会社 トプコン (TOPCON CORPORATION)	 本 社
本社:	〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75番1号 <a href="#">トプコン案内図</a> 電話 (03)3966-3141(番号案内)	
代表者:	取締役社長 横倉 隆	
設立:	1932年(昭和7年)9月1日	
資本金:	10,297百万円(2010年3月末現在)	
売上高:	連結 94,862百万円 単独 44,939百万円 (2010年3月期)	
事業内容:	ポジショニング(測量機器、GPS、マシンコントロールシステム、3次元計測機器、GIS、精密農業、移動体制御)、アイケア(眼科用検査・治療機器、眼科用ネットワークシステム、眼鏡店向け機器)、ファインテック(半導体関連装置、FPD・PV関連装置、光学部品その他)等の製造・販売 <a href="#">詳しくはこちら</a>	
上場証券取引所:	東京証券取引所市場第一部	
海外駐在員事務所:	中華人民共和国(北京市、上海市)、台湾 アラブ首長国連邦(ドバイ市) レバノン共和国(ベイルート)	
トプコングループ:	<a href="#">国内</a> 16社 <a href="#">海外</a> 52社 (2010年3月31日現在)	
社員数:	連結 4,888名 単独 1,195名(2010年3月末現在)	
国際規格認証取得:	ISO9001 [全ビジネスユニット] ISO13485 [アイケアビジネスユニット] ISO14001 [本社工場]	
	<a href="#">会社案内 PDF</a> :  11,104KB	



(別ウィンドウで開きます)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。  
[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.






[TopPage](#) > [投資家情報](#) > [IRライブラリー](#) > 有価証券報告書

## 有価証券報告書

### 最新資料

[第117期 有価証券報告書](#)

 912KB


[2010年6月28日提出臨時報告書](#)

 110KB


### バックナンバー

#### 2009年度


[第117期 第3四半期報告書](#)

 342KB

[第117期 第2四半期報告書](#)


 346KB

[第117期 第1四半期報告書](#)


 311KB

#### 2008年度

[第116期 有価証券報告書](#)

 973KB

[第116期 第3四半期報告書](#)

 331KB

[第116期 第2四半期報告書](#)

 324KB

[第116期 第1四半期報告書](#)

 307KB

#### 2007年度

[第115期 有価証券報告書](#)

 810KB


[2008年2月4日提出臨時報告書](#)

 105KB

[2008年1月30日提出臨時報告書](#)

 124KB

[第115期 半期報告書](#)

 631KB

#### 2006年度

[第114期 有価証券報告書の訂正報告書](#)

 110KB

[第114期 有価証券報告書](#)

 816KB

[第114期 半期報告書](#)

 593KB

#### 2005年度

[第113期 有価証券報告書](#)


 741KB

[第113期 半期報告書](#)


 420KB



## 2004年度

[第112期 有価証券報告書](#) 1,097KB[第112期 半期報告書](#) 438KB


## 2003年度

[第111期 有価証券報告書](#) 972KB[第111期 半期報告書](#) 385KB

## 2002年度

[第110期 有価証券報告書](#) 995KB[第110期 半期報告書](#) 336KB


## 2001年度

[第109期 有価証券報告書](#) 962KB[第109期 半期報告書](#) 463KB

## 2000年度

[第108期 有価証券報告書](#) 4,243KB[第108期 半期報告書](#) 398KB

## 1999年度

[第107期 有価証券報告書](#) 1,055KB

(別ウィンドウで開きます)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。

[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > 社会・環境活動(CSR)



各国・地域の法令の遵守、社会倫理の尊重、環境負荷の低減、安全かつ良質な製品・サービスの提供等をおこない、同時にステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを、より積極的に推し進め、企業活動を通じた社会貢献を実践してまいります。

- [トプコン事業行動基準](#)
- [CSRIに関する主な方針](#)

## ■CSR報告書



- 全ページ版

[PDFダウンロード](#) (6,056KB)

- 会社概要
- トプコングループ
- 財務情報
- 編集方針

[PDFダウンロード](#) (780KB)

## CSRマインド

- トップメッセージ
- 国連グローバル・コンパクト
- CSR基本方針他
- 事業紹介
- CSRの取り組みと目標(抜粋)

[PDFダウンロード](#) (924KB)

## 特集

- トプコン製品と社会とのかかわり

[PDFダウンロード](#) (1,176KB)

## CSRマネジメント報告

- CSR月間行事他
- リスク・コンプライアンス
- BCP(事業継続計画)の策定
- 内部統制に関する活動



[PDFダウンロード](#) (1,129KB)

## CSRアクティビティ報告

- 環境保全活動
- 社会貢献情報
- 社員への責任
- お客様・取引先への責任

[PDFダウンロード](#) (4,535KB)>> [環境報告追加情報\(環境調和型製品\(ECP\)への取り組み、環境会計への取り組み\)](#)[第三者意見、第三者意見を受けて](#) (pdf / 583KB)

※ 冊子版をご希望の方は下記までご連絡ください

株式会社トプコン

TOPCON CSR Committee(事務局 総務・CSR部 CSR担当)

TEL:03-3558-2893

■ バックナンバー (環境報告書は2006年より「トプコンCSR報告書」に包含しております。)

- [トプコンCSR報告書2009](#) (pdf / 2,352KB)
- [トプコンCSR報告書2008](#) (pdf / 5,120KB)
- [トプコンCSR報告書2007](#) (pdf / 2,396KB)
- [トプコンCSR報告書2006](#) (pdf / 2,299KB)
- [トプコングループ環境報告書2005](#) (pdf / 550KB)
- [トプコングループ環境報告書2004](#) (pdf / 678KB)
- [トプコングループ環境報告書2003](#) (pdf / 1,290KB)
- [トプコン環境報告書2002](#) (pdf / 1,014KB)
- [トプコン環境報告書2001](#) (pdf / 615KB)

## ■ 国連「グローバル・コンパクト」

[グローバル・コンパクトへの参加について](#)

トプコンは2007年10月、グローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、参加を表明しました。



(別ウィンドウで開きます)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。

[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#)

## トプコン事業行動基準

---

### トプコン事業行動基準について

#### 第1章 事業行動指針

#### 第2章 企業行動についての基準

- 2. 1 社会とのかかわり
- 2. 2 環境保全
- 2. 3 総合品質保証
- 2. 4 お客様の尊重
- 2. 5 営業活動
- 2. 6 調達活動
- 2. 7 輸出管理
- 2. 8 競争法遵守
- 2. 9 不適正な支出の禁止
- 2. 10 政治寄付
- 2. 11 政府との契約
- 2. 12 適正な会計
- 2. 13 広報
- 2. 14 広告

#### 第3章 会社と社員等の関係についての行動基準

- 3. 1 人間の尊重
- 3. 2 職場環境
- 3. 3 社員等の外部活動
- 3. 4 情報
- 3. 5 技能・技術者倫理の遵守
- 3. 6 知的財産権の尊重
- 3. 7 海外安全

制定 1990年11月（改訂:2007年11月）

[CSRのTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > [トプコン事業行動基準について](#)

## トプコン事業行動基準について

---

### 1. 目 的

トプコン事業行動基準(以下「本基準」という。)は、トプコン経営理念及び経営方針に基づき、トプコンが事業活動を展開していくにあたって、法令を遵守し、経済・社会倫理に従って行動するという観点から、トプコン及びその社員等の行動基準を定めたものである。

### 2. 適用範囲

- (1) 本基準は、トプコン各会社が、取締役会等で承認することにより、各会社の社員等に適用する。
- (2) トプコン各会社は、国や地域の法令、商慣行、労働慣行、価値観等や自社の業態、取引形態、商品・サービスの内容等に応じて、本基準の内容の一部を変更することができるが、本基準に反する内容を定めることはできない。

### 3. 定義

本基準における各用語の定義は、以下に定めるところによる。

- (1) 「トプコン」とは、株式会社トプコン及びその「子会社」をいう。
- (2) 「子会社」とは、株式会社トプコンが実質的に議決権総数の過半数或いは実質的な支配力を有する法人をいう。
- (3) 「社員等」とは、「トプコン」の役員及び社員をいう。
- (4) 「社員」とは、「トプコン」の社員(顧問・嘱託社員等を含む。)をいう。
- (5) 「商品」とは、トプコンの製造であるか否かを問わず、トプコンの責任において販売される一切の製品類及びシステム類をいう。

### 4. 推進体制

#### 4.1 実施統括責任者

トプコン各会社は、本基準の実施について責任を負う「実施統括責任者」を任命する。株式会社トプコンの実施統括責任者は、リスク・コンプライアンス関係担当役員(Chief Risk-Compliance Management Officer)、子会社の実施統括責任者は、社長とする。

#### 4.2 実施責任者

実施統括責任者は、本基準の各項目を推進するため、「実施責任者」を指名する。株式会社トプコンの実施責任者は、第一段部長、営業所長、海外事務所長とし、それぞれの部門における本基準の実施についての責任を負うとともに所管する子会社に対する指導の責任を負う。

#### 4.3 事務局

本基準の管理及びトプコン各会社の本基準の採択・実施の推進、支援のための事務局は、株式会社トプコン法務部とする。

### 5. 内部通報制度、通報者保護

- (1) トプコンは、リスク・コンプライアンス情報(本基準で禁止されている行為が行われている、又はその疑いがあるという情報)に接した社員等が、その情報を実施統括責任者、リスク・コンプライアンス担当部門等に直接提供することができる内部通報制度を構築し、適切に運用する。
- (2) 社員等は、リスク・コンプライアンス情報に接した場合、直ちに上長或いは上位の管理者に報告、又は前号の内部通報制度に則り情報提供を行う。
- (3) 内部通報制度等を通じてリスク・コンプライアンス情報を受け取った、実施統括責任者、実施責任者、リスク・コンプライアンス担当部門、上長又は上位の管理者は迅速、適切に対応する。
- (4) 誠実かつ正当な目的でリスク・コンプライアンス情報を提供した社員等に対し、情報提供を行ったことを理由に、不利益な取扱いを行わない。

### 6. 本基準に違反した場合の措置

本基準が禁止している行為を行った場合、トプコン各会社の就業規則の定めるところにより、解雇を含む懲戒処分の対象となる。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)









[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第1章 事業行動指針

## 第1章 事業行動指針

---

トプコンは、公正な競争を通じて利潤を確保して社員、株主及び社会に報いるとともに、「良き企業市民」として有益な存在であることを求め続ける。

このためトプコンは、以下の事業行動指針を定め、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって行動する。

1. 環境問題への取り組みは、人類社会が地球との調和・協調を図るため、企業の必須活動であることを認識し、自主的かつ積極的に取り組む。
2. 社会に有益な商品とサービスを安全性に配慮して開発、提供するとともに、品質管理には万全の態勢をもって臨む。
3. 公正、透明、自由な競争社会の形成を理想とし、政治及び行政との健全な関係を保つ。
4. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは断固として対決し、一切の関係をもたない。
5. 広く社会とのコミュニケーションを図り、正しい企業情報を適時・適切に開示する。
6. 社員のゆとりと豊かさを実現し、安全かつ働きやすい環境を確保するとともに、社員の人格、個性を尊重する。
7. 海外活動においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献する活動を行う。
8. 事業行動に伴うすべてのリスクについて適切な予防と対応を施し、経営資源喪失の防止に努める。
9. 経営トップは、事業行動指針の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、関係者への周知徹底と社内体制の整備を行うとともに、倫理観の涵養に努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.1 社会とのかかわり

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.1 社会とのかかわり

#### 2.1.1 基本方針

2.1.1.1 トプコンは、地域社会との連帯と協調を図り、その一員としての責任を果たす。

2.1.1.2 トプコンは、社員等の社会奉仕活動(ボランティア活動)を支援する。

#### 2.1.2 具体的行動基準

- (1) トプコンの経営姿勢を地域社会に正しく伝える。
- (2) 地域社会の風土・文化・慣習を尊重し、融和を図る。
- (3) 地域社会との接触機会の拡大を図り、トプコンの事業活動に対する地域社会からの理解の促進と良好な関係の維持に努める。
- (4) 地域社会の発展・向上に貢献するため、社会性・公共性・必要性等を勘案し、タイムリーかつ適正な寄付を行う。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.2 環境保全

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.2 環境保全

#### 2.2.1 基本方針

トプコンは、「かけがえのない地球環境」を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識にたって、環境保全を技術的、経済的に可能な範囲で推進するべく、以下の方針に従う。

- (1) 積極的な環境施策の展開により、継続的な改善・向上を図るとともに、環境保全に関する法令の遵守はもとより、より厳しい自主基準での管理に努める。
- (2) 事業活動、商品及びサービスが環境に与える影響を評価し、その改善に向けて環境目的及び目標を設定して、環境負荷の低減、資源の有効活用、環境技術・製品の開発及び提供に努める。
- (3) 環境保全に対する組織を整備し、規制化学物質の削減、施設の改善、廃棄物削減・再資源化、省エネルギー、環境調和商品の開発等に積極的に取り組む。

#### 2.2.2 具体的行動基準

- (1) 環境保全に関する教育・広報活動を積極的に行い、社員等の環境保全に対する意識の高揚を図る。
- (2) 省資源化・減量化・再資源化等、地球環境への負荷を低減するため、新規立地・再配置、設備投資、設備設計・工事、商品企画・開発段階から製造・流通・廃棄までの各段階において事前評価を行う。
- (3) 法令等により規制されている有害物質は、極力使用しないこととする。当該物質を使用する場合は、最善の技術をもって排出を最小にするよう努力する。
- (4) 地球環境の負荷低減化のための新技術及び商品開発に努めるとともに、これに関する情報を収集する。
- (5) 定期的に環境測定及び点検を実施し、その記録を規定に基づき保存する。
- (6) 記録・報告等の情報は、真正、正確かつ完全でなければならない。
- (7) 点検により、不適合箇所を発見した場合は、直ちに改善措置をとる。また、異常を認めた場合は、直ちに運転を停止する等の適切な緊急措置をとる。
- (8) 万が一、事故が発生した場合は、直ちに所轄官公庁及び社内関係先に報告するとともに、原因の究明、事故の拡大防止及び収束のために最善を尽くす。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2019 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.3 総合品質保証

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.3 総合品質保証

#### 2.3.1 基本方針

- 2.3.1.1 トプコンは、人類社会に貢献するとの経営理念に則って、関連する法令を遵守するとともに「顧客指向」及び「品質第一」に徹し、顧客が満足する高品質で安全な商品及びサービスを提供する。
- 2.3.1.2 トプコンは、市場に提供するすべての商品及びサービスについて、通常有すべき有益性と安全性の確保並びに法令及び契約に基づき瑕疵のない製品及び役務を提供することを追求し、製造物責任(PL;Product Liability)事故及び契約責任(CL;Contract Liability)事故が生じないよう不断的努力と最善の注意を払う。

#### 2.3.2 具体的行動基準

- (1) 顧客の立場に立った品質の確保を行う。
- (2) 関連する法令・規格等を遵守するとともに、顧客と第三者の権利を尊重する。
- (3) 商品及びサービスの品質及び安全性の確保のために、総合的品質保証体制を確立・維持し、あわせて総合的な施策を実施する。
- (4) 商品の開発・改良にあたっては商品の信頼性、安全性、操作性及び保守サービス性を十分考慮し、顧客の要求を満たし、かつ市場ニーズに合致するよう努める。
- (5) 商品及びサービスに係るすべての予知しうる危険に対し対策を講じる。社員等は、係る対策が国際的な技術水準に照らして妥当であると判断されるレベルを維持するよう努めるとともに、これに必要な情報を常に収集するよう心掛ける。
- (6) 万が一、問題が発生した場合には、迅速かつ適切に被害者の救済を行うとともに、係る問題の真因を究明し、再発防止に努める。
- (7) 全部門、全員参加で品質の作り込みを行う。
- (8) 法令及び契約に基づき瑕疵のない商品又はサービスを提供する責任を負っていることを認識するとともに、顧客、購入先その他取引先との保証体制を明確にし、契約責任(CL)に関する万全の管理体制を確立するよう努める。
- (9) 医療用具の製造又は輸入販売にあたっては、薬事法及び関連法規を遵守し、その付属品を含めて有効性及び安全性の確保に努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) 

Copyright © 1997-2019 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.4 お客様の尊重

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.4 お客様の尊重

#### 2.4.1 基本方針

トプコンは、お客様の多様化するニーズを満足できる安全で有用な商品及びサービスを提供し、社会に貢献することを目指す。

#### 2.4.2 具体的行動基準

- (1) 社員等は、CS(Customers Satisfaction)理念に則って顧客より関連情報を収集・管理し、係る情報に基づいて営業業務の改善及び諸計画の立案・実施することにより、顧客サービスに努める。
- (2) お客様のニーズを尊重し、最大限に満足していただける商品及びサービスを提供するための体制、事業の仕組みを構築する。
- (3) 商品の販売及びサービスにおいては、国や地域ごとの法令及び契約を遵守するとともにお客様のニーズを満足すべく最大限努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2019 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.5 営業活動

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.5 営業活動

#### 2.5.1 基本方針

トプコンは、常に顧客のニーズに基づき、優れた商品とサービスを提供し、遵法方針に則り、公正な営業活動を行う。

#### 2.5.2 具体的行動基準

##### 2.5.2.1 公正な営業活動

(1) 営業活動を行うにあたっては、顧客に対しトプコンを代表する者であることを認識し、誠意をもってすべての顧客に公正かつ公平に接するものとし、多種多様な顧客に対し、それぞれ適切な条件で取引を行う。

##### (2) 互恵取引

取引先から商品やサービスを購入するにあたり、当該取引先が当社から商品やサービスを購入することを条件として強要してはならない。

##### 2.5.2.2 公正な競争

##### (1) 誹謗

顧客への商品の販売やサービスの提供にあたっては、同業他社やその取扱品等を誹謗してはならない。

##### (2) 競争法の遵守

営業活動を行うにあたっては、本章第8項(競争法遵守)に従い、独占禁止法並びに関連法規を遵守し、自由で公正な競争に努めなければならない。

##### 2.5.2.3 情報管理

(1) 営業活動を行うにあたっては、市場及び顧客(同業他社を含む。)に関する情報を正当な方法で入手し、これを商品企画・設計・生産計画に反映し、事業の牽引力となるように努めるとともに、不正な手段を用いて他社の企業秘密(同業他社の社員の引抜きを含む。)や、その他の秘密情報を取得してはならない。

(2) 商品計画、市場調査・研究、生産計画・生産能力等の秘密情報については、所定の手続を経ないで開示、漏洩してはならない。

(3) 情報管理に関する基準は、第3章第4項(情報)に定めるところによる。

##### 2.5.2.4 接待及び贈物

営業活動を行うにあたって接待又は贈物等を行う場合は、各国・地域の法令及び健全な商慣行を厳守するものとする。その基準は本章第9項(不適正な支出の禁止)に定めるところによる。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.6 調達活動

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.6 調達活動

#### 2.6.1 基本方針

トプコンは、調達活動に係る法令を遵守するとともに、公正な取引関係のもとに必要な資材(役務を含む。)を適切な品質・価格及び納期で調達する。

環境に調和した商品作りのため、グリーン調達を推進する。

#### 2.6.2 具体的行動基準

- (1) 取引先に対して公平に競争の機会を与えるとともに、品質、価格、納期、サービス、安定供給及び環境への配慮の面からの総合的かつ公正な評価に基づき調達する。
- (2) 取引先から職務に関連して個人的な利益の供与を受けないことはもとより、関連する法令及び健全な商慣習を遵守し、取引先との契約上の義務を誠実に履行するとともに、取引先と相互に利益のある関係を樹立し、これを維持する。
- (3) 商品の品質維持にあたり、一定水準を満たした資材を安定的に調達するため、取引先とともに品質管理に努める。
- (4) 資材の調達にあたり、省資源、省エネルギー、長期使用可能、リサイクル可能、リサイクル材の利用、環境関連物質の含有量を調査し、環境負荷の少ない資材を優先的に採用する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) 

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.7 輸出管理

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.7 輸出管理

#### 2.7.1 基本方針

トプコンは、国際的な平和と安全の維持を阻害するおそれのある取引に関与しないため、日本又は事業活動を行う国の外国貿易管理に関連する法令及び「米国輸出管理法」並びにこれらに関連する諸法規の趣旨をよく理解するとともに、これらを守るために別に定めるところにより規制物資等管理プログラム及び米国製品・技術情報輸出管理プログラム(以下、これらを総称して「管理プログラム」という。)を策定し、遵守する。

#### 2.7.2 具体的行動基準

本基準実施の細目は、管理プログラム及びこれらに関する実務マニュアルの定めるところによる。プログラムの骨子は以下のとおり。

- (1) 社員等は、規制物資等を日本又は事業活動を行う国の外国貿易管理法並びにこれらに関連する諸法規に違反して、輸出及び輸出に関連する取引を行わない。
- (2) 社員等は、米国製品及び技術情報を米国輸出管理法並びにこれらに関連する諸法規に違反して、輸出及び再輸出を行わない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.8 競争法遵守

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.8 競争法遵守

#### 2.8.1 基本方針

トプコンは、事業活動を行うにあたり、事業者の公正かつ自由な競争を促進して、市場の健全な発展と消費者を含む社会全体の福利向上を図ることを目的として制定されている競争法を厳格に遵守する。

#### 2.8.2 具体的行動基準

社員等は、以下に掲げる行動を行ってはならない。但し、これらは例示であり、禁止行為の詳細は、日本における独占禁止関連法令の他、米国、欧州連合等、各国や地域ごとの法令の定めるところによる。

- (1) 社員等は、同業他社との間で、両者間の競争を制限するような、販売価格、見積・入札金額、生産又は販売数量・金額に関する制限、シェア割り、受注予定者の決定、販売先・販売地域の制限、生産設備・技術の制限等の合意を行わない。この合意は、具体的に覚書や議事録の形で合意する場合のみならず、口頭による合意も含む。
- (2) 社員等は、上記のような合意を行っているという疑義を招くような同業他社との会合の結成・参加、約束・取決め、情報交換等を行わない。
- (3) 社員等は、販売業者に対し、取扱商品の再販売価格を強要してはならない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.9 不適正な支出の禁止

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.9 不適正な支出の禁止

#### 2.9.1 基本方針

- 2.9.1.1 トプコンは、合法的に事業活動を行うものとし、非合法又は不適切な礼金や賄賂を提供しない。
- 2.9.1.2 社員等は、業務上の接待費の支出及び贈物の提供にあたり法令を遵守し、健全な商慣習に従うように努めなければならない。

#### 2.9.2 具体的行動基準

- 2.9.2.1 社員等は、直接又は間接を問わず、以下に定める者(その代理人を含む。)に対し、事業活動において有利な決定を導くため又は有利な決定に対する謝礼として、報酬、接待、贈物、寄付、祝儀その他いかなる形態によっても、関連する法令に違反し、又は健全な商慣習・社会通念を越えた金銭の支払若しくは価値あるものの提供又はその申込みを行ってはならない。
  - (1) 一般顧客(法人又は個人を問わない。)
  - (2) 国内外の政府機関(地方公共団体及び国際機関を含む。)又はその職員(元職員を含む。)
  - (3) 政治家(候補者を含む。)又は政治団体及びその職員
- 2.9.2.2 社員等は、仲介人(トプコンのために取引契約又は取引関係を勧誘、確保、保持することにより報酬を得る者。以下同じ。)を使用する場合、事前に仲介人の行うサービス及びその報酬等につき、合理的な取決めをしなければならない。また、法令上の規制がある場合には、仲介人への報酬の支払につき当該法令に従い事前に連絡する等の必要な措置を講じなければならない。
- 2.9.2.3 上記は例示であり、具体的細目は各国・地域ごとの法令の定めるところによる。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2019 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.10 政治寄付

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.10 政治寄付

#### 2.10.1 基本方針

トプコンは、法令で認められる場合を除き、直接又は間接を問わず、政治家(候補者を含む。以下同じ。)又は政治団体に対して政治寄付等を行わない。

#### 2.10.2 具体的行動基準

- (1) 政治家又は政治団体に対し、法令、会社規定に反した不適正な政治寄付等を行わない。
- (2) 直接、間接を問わず、政治家又は政治団体に対し、次の行為を行わない。
  - 1) 通常の商慣行より有利な条件での販売及び貸付等(債務保証等を含む。)
  - 2) 接待、贈物等の利益の供与(法令に違反せず、かつ社会的妥当性が認められる場合を除く。)
- (3) 官公庁向け営業に関し、政治家等(元議員等、秘書、元秘書を含む。)本人又は本人が関係する会社に対しては、口銭、コンサルタント料等の名目の如何を問わず、金銭を支払わず、また、便宜を供与しない。
- (4) 代理店等の第三者に、前記第1号から第3号までに定める禁止行為をさせない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.11 政府との契約

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.11 政府との契約

#### 2.11.1 基本方針

トプコンは、顧客としての政府機関(地方公共団体を含む。以下「政府」という。)との取引に関し、法令又は契約に違反する行為を行わない。

#### 2.11.2 具体的行動基準

社員等は、以下に掲げる行為を政府との取引において行ってはならない。但し、これらは例示であり、具体的細目は各国・地域ごとの法令の定めるところによる。

- (1) 政府との契約における契約金額の不実な見積等、政府に関する虚偽情報の提供
- (2) 競争法に違反して同業者と談合又は協定する等、本章第8項(競争法遵守)により禁止される行為
- (3) 政府又はその職員(元職員を含む。以下同じ。)に対する本章第9項(不適正な支出の禁止)により禁止される報酬、接待、贈物、寄付、祝儀等の不適正な支出
- (4) 政府又はその職員から入手した機密情報の守秘義務に違反しての漏洩
- (5) 政府の職員の採用による政府の規則に違反する利害相反活動の実施

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.12 適正な会計

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.12 適正な会計

#### 2.12.1 基本方針

社員等は、会計に関する法令・基準を遵守し、適正に会計処理と会計報告を行う。

#### 2.12.2 具体的行動基準

- (1) 会計情報を適時かつ正確に記録し、不適正な会計処理、誤解を与える会計報告を行わない。
- (2) 会計情報を迅速かつ正確に開示できるよう、経理システムの維持、改善に努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) 

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.13 広報

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.13 広報

#### 2.13.1 基本方針

トプコンは、その経営理念・経営方針、財務データ等の企業情報を、マスメディア、証券アナリスト等を通して適時・適切に開示することが重要であることを認識し、積極的に広報活動を行うことによって、顧客、株主を始めとする投資家、地域社会等から正しい理解と信頼を勝ち得、あわせてトプコンの知名度や企業イメージの向上を図る。

又、各種のコミュニケーション・ツールを用いて社員等のモラル向上及び企業との一体感醸成を図る。

#### 2.13.2 具体的行動基準

- (1) 企業情報を、関係法令に従い適時・適切に開示する。
- (2) マスメディア、証券アナリスト等社外向けの広報活動においては、その目標を明確にし、公表すべき情報やデータを揃え、客観的事実に基づき誠実にこれを行う。
- (3) 社員等が、新聞、雑誌、テレビ等のマスメディアと接触し、情報を開示する場合は、事前に広報責任者の了解を得ることを原則とする。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第2章 企業行動についての基準 - 2.14 広告

## 第2章 企業行動についての基準

---

### 2.14 広告

#### 2.14.1 基本方針

トプコンは、広告活動を通じ、事業活動を行う国や地域においてTOPCONブランドの知名度向上を図り、また、TOPCONブランド(及びトプコン製品)に対する人々の好意と信頼を獲得することにより、健全な販売促進と海外事業の発展のための環境づくりを行う。また、グローバルなコミュニケーション活動を通じてそれぞれの国や地域における良き企業市民としてのイメージの確立を図る。

#### 2.14.2 具体的行動基準

- (1) 広告活動における表現は常に前向きかつ積極的なものであり、また事実に基づくものでなければならない。
- (2) 品位の劣る広告や、他を誹謗することによりトプコンの優位性を訴求するような広告は行わない。
- (3) 政治・宗教等については広告表現の対象としない。又、人種差別につながるような表現や個人の尊厳を傷つけるような表現は使用しない。
- (4) 顧客に誤認され又は誤認されるおそれのある不当な表示(誇大表示・誤認表示)を付し、又は顧客に対して過大な景品類を提供してはならない。(本章第8項関係)
- (5) 広告活動においては、CI(Corporate Identity)マニュアル等を活用するものとする。
- (6) 広告活動の推進にあたっては、広告代理店、媒体会社等の外部関係者を総合的かつ公平に評価し、その能力を幅広く活用する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第3章 会社と社員等の関係についての行動基準 - 3.1 人間の尊重

## 第3章 会社と社員等の関係についての行動基準

---

### 3.1 人間の尊重

#### 3.1.1 基本方針

- (1) トプコンは、人間尊重の立場に立って、個人の多様な価値観を認め、人格と個性を尊重するとともに、社員等に自己実現の場を与え、その資質を最大限に発揮させる。
- (2) トプコンは、法令遵守はもとより、基本的人権を尊重し、差別的取扱い等を行わない。又、児童労働、強制労働を認めない。
- (3) トプコンは、創造的、効率的に業務を遂行できる環境を整え、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現を支援する。

#### 3.1.2 具体的行動基準

- (1) 品位と良識を兼ね備えた、自立した社会人として責任をもって行動する。
- (2) 個人の基本的人権、多様な価値観、個性、プライバシーを尊重し、人種、宗教、性別、国籍、身体・精神障がい、年齢、性的指向等に関する差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント(職場のいじめ、嫌がらせ)等の人格を無視する行為をしない。
- (3) 自らの成果領域と責任権限に基づき業務を遂行する。又、能力向上のために自己研鑽に努める。
- (4) 多様な働き方によりワーク・ライフ・バランスを実現し、能力を最大限に発揮できるよう努める。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第3章 会社と社員等に関する関係についての行動基準 - 3.2  
職場環境

## 第3章 会社と社員等に関する関係についての行動基準

---

### 3.2 職場環境

#### 3.2.1 基本方針

トプコンは、社員等がその資質を最大限に発揮できる職場環境を創るため、安全衛生及び良好な人間関係を維持する上で必要とされる措置を実施する。

#### 3.2.2 具体的行動基準

- (1) 闊達で秩序ある職場風土の実現に努める。
- (2) 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進する。
- (3) 建築物・設備等につき、必要な安全対策を講じる。
- (4) 安全性と健康を重視した作業基準を制定し、遵守する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#) 

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第3章 会社と社員等に関する関係についての行動基準 - 3.3  
社員等の外部活動

## 第3章 会社と社員等に関する関係についての行動基準

---

### 3.3 社員等の外部活動

#### 3.3.1 基本方針

トプコンは、社員等の適正な社外活動が行われるよう努めるとともに、その社会奉仕活動等を支援する。

#### 3.3.2 具体的行動基準

##### 3.3.2.1 政治活動

- (1) トプコンは、社員等の公民権の行使について最大限配慮する。
- (2) 社員等の政治活動は、就業時間外に会社施設以外の場所で行われなければならない。
- (3) 社員等が公職に就任し、勤務に支障のある場合は、会社を休職する。

##### 3.3.2.2 社会奉仕活動等

- (1) 社員等の社会奉仕活動等は、就業時間外に行う。
- (2) トプコンは、個々のケースに応じ、休暇の取得、施設の便宜供与等により社員等の社会奉仕活動等を支援する。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第3章 会社と社員等の関係についての行動基準 - 3.4 情報

## 第3章 会社と社員等の関係についての行動基準

---

### 3.4 情報

#### 3.4.1 基本方針

- (1) トプコンは、情報の財産価値を認識し、他人の情報を尊重するとともに、会社情報の漏洩、不正利用の防止及び会社情報に係る財産権の保護に努めるものとする。
- (2) トプコンは、事業活動において個人情報の保護を適切に行う。

#### 3.4.2 定義

- (1) 本基準において「会社情報」とは、社員等がその業務遂行過程において取扱うすべての情報(第三者に係る情報を含む。)で、それが漏洩された場合、企業活動に不利益を与えるものをいい、有形・無形を問わず、作成者・所有者の如何を問わない。
- (2) 本基準において「個人情報」とは、社員等がその業務遂行過程において取扱う顧客、取引先等の役職員、求人応募者及び社員等その他個人に関する情報で、当該個人を識別することを可能にするものをいう。

#### 3.4.3 具体的行動基準

##### 3.4.3.1 情報の取扱

社員等は、職務上生じ又は入手した情報を会社情報として取扱い、その管理及び漏洩防止に努めなければならない。

##### 3.4.3.2 情報の尊重

- (1) 社員等は、第三者の情報に対して十分注意を払い、不正な手段によりこれを入手し、又は不正な目的のためにこれを開示若しくは利用してはならない。
- (2) 社員等は個人情報を尊重・保護し、その収集、管理、活用にあたっては個人情報保護方針に基づき適切かつ公正な方法で行わなければならない。

##### 3.4.3.3 秘密漏洩の禁止

- (1) 社員等は、在職中又は退職後を問わず、在職中に知り得た会社情報及び個人情報を開示、漏洩してはならない。
- (2) 社員等は、入社前に知得した他者(法人、個人を問わない。以下同じ)情報について守秘義務を負っている場合には、当該他者の情報をトプコンに開示、漏洩し又は職務に流用してはならない。

##### 3.4.3.4 不正利用の禁止

- (1) 社員等は、在職中又は退職後を問わず、会社情報及び個人情報を不正に利用し、自己若しくは第三者の利益を図り又はトプコンに損害を与えてはならない。
- (2) 社員等は、未公開の会社情報その他の未公開の内部情報に基づき、内部者取引を行ってはならない。
- (3) 情報の入手又は社内外への伝達のために、機器、通信、設備等を不適正に使用してはならない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第3章 会社と社員等との関係についての行動基準 - 3.5  
技能・技術者倫理の遵守

## 第3章 会社と社員等との関係についての行動基準

---

### 3.5 技能・技術者倫理の遵守

#### 3.5.1 基本方針

社員等は、高い倫理観をもって技能・技術活動に取り組む。

#### 3.5.2 具体的行動基準

- (1) 専門的知識や技能・技術を活かして、人類の健康・幸福・安全、環境調和型製品の開発・製造に貢献する。
- (2) 科学的事実に基づき、また、法令や社会通念の変化を常に認識して、公正かつ自律的に判断し、正直かつ誠実に行動する。
- (3) 後継技能者・技術者の育成と技能・技術の継承に努める。
- (4) 関係者とのコミュニケーションの活性化を図り、闊達で透明性のある職場風土づくりに努める。
- (5) お客様との契約に基づき知り得た情報について秘密保持の義務を全うし、また、会社の秘密情報を許可なく第三者に開示、漏洩しない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第3章 会社と社員等の関係についての行動基準 - 3.6  
知的財産権の尊重

## 第3章 会社と社員等の関係についての行動基準

---

### 3.6 知的財産権の尊重

#### 3.6.1 基本方針

トプコンは、知的活動の成果を知的財産権によって保護し、会社の知的財産権を積極的に活用するとともに、他人の知的財産権を尊重する。

#### 3.6.2 定義

本基準において「知的財産権」とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、回路配置利用権、不正競争防止法により保護される営業情報(トレードシークレット、ノウハウ)等及びこれらと同等の価値を有する発明・考案・意匠等をいう。

#### 3.6.3 具体的行動基準

##### 3.6.3.1 知的財産権の取扱

- (1) 社員等の職務上生じた知的財産権は、トプコンに帰属する。
- (2) 社員等が図面、報告書、プログラム等の著作物に関し職務著作をしたとき又は半導体集積回路の回路配置に関し職務創作をしたときは、その著作権又は回路配置利用権はトプコンに帰属する。
- (3) 社員等が在職中に完成した職務発明、職務考案、意匠の職務創作については、それが当該社員等の退職後に判明した場合であっても、トプコンはその出願権又は特許権等を承継する。

##### 3.6.3.2 他人の知的財産権の尊重

社員等は、他人の知的財産権を十分に尊重し、業務上他人の知的財産権を使用する場合は、適正な手続を経なければならない。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [トプコン事業行動基準](#) > 第3章 会社と社員等との関係についての行動基準 - 3.7  
海外安全

## 第3章 会社と社員等との関係についての行動基準

---

### 3.7 海外安全

#### 3.7.1 基本方針

トプコンは、海外出張している社員等及び海外赴任している社員等並びにその家族の安全を確保するため、突発的危機対応システムを構築し、事件・事故の予防策を中心とした安全対策の確立・強化充実を図る。

#### 3.7.2 具体的行動基準

- (1) 社員等はこの基本方針に基づき、常に安全の確保に努めなければならない。
- (2) 事件・事故の発生時には、人命を尊重することはもとより、被害を最小限度に止めるための必要施策を直ちに構ずるものとする。
- (3) 所管部門の責任者は、常に周辺地域で発生した事件・事故の実態の把握・分析に努めるとともに、安全管理施策の考案を怠ってはならない。
- (4) 海外出張の社員等が事件・事故に遭遇した場合、当該地域に子会社があるときは、当該子会社の長は救援に最大限の努力を尽くすものとする。

[トプコン事業行動基準のTOPへ戻る](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION. All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > CSRに関する主な方針

## CSRに関する主な方針

---

- [▶ CSR基本方針](#)
- [▶ BCP基本方針](#)
- [▶ 個人情報保護方針](#)
- [▶ 環境方針](#)
- [▶ トプコングループ人財育成基本方針](#)
- [▶ トプコングループ安全健康基本方針](#)

[CSRのTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [CSRに関する主な方針](#) > CSR基本方針

## CSR基本方針

---

- (1) グローバル企業にふさわしい価値観、基準を形成・共有し実践するため、CSR活動を経営の中に位置づけ、計画的に取り組みます。
- (2) グローバル・コンパクトに掲げられるとおり、影響力のおよぶ範囲内で、人権、労働基準、環境、腐敗防止に関して、国際的に認められた規範を支持し、実践します。
- (3) 有用な商品の開発、製造、販売、サービスを通じて、人類社会への貢献を主体的・能動的に果たします。
- (4) 環境に配慮した事業プロセスの構築、商品・サービスの提供等により、環境経営を推進します。
- (5) 役員、社員一人ひとりの日常活動への定着、グループ・グローバルでの浸透、定着を図ります。
- (6) 積極的な情報発信により、トプコングループに対するすべてのステークホルダーの理解と信頼を獲得します。

制定:2008年10月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [CSRに関する主な方針](#) > BCP基本方針

## BCP基本方針

---

- (1) 社員とその家族の安全と安心を優先します。
- (2) お客様への商品の供給責任を全うします。
- (3) 地域とお客様の復旧・復興を支援します。
- (4) 事業の早期復旧を図り、経営への影響を最小限にとどめます。

制定:2009年4月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > 個人情報保護方針

## 個人情報保護方針

---

株式会社トプコン（以下「当社」といいます）は、お客様の個人情報を尊重し、その保護に努めます。当社は、その事業活動において、以下の個人情報保護方針を実施します。

### 1.基本方針

1. 個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。
2. 当社がお客様から個人情報を収集する場合、特に個別にご説明しないとき、その個人情報は、当社、グループ会社、その他から、お客様への商品またはサービスのご提供やご紹介、お客様に役立つと思われるご案内をさせて戴く目的に使用します。また、情報の分析、加工、お客様へのフィードバック等の目的で、第三者への提供や預託をさせて戴くことがあります。これらの取扱は、当社の事業内容や規模に合せて適切に行います。
3. 不正アクセス、漏洩、紛失、破壊、改ざん等、個人情報に関するリスクに対して、合理的な安全対策を講じます。
4. 個人情報保護の社内体制を整備し、さらに、これを引き続き見直し改善して行きます。

2001年4月1日制定

株式会社トプコン

取締役社長 横倉 隆

### トプコンホームページの個人情報保護について

『トプコンホームページ』をご利用いただくお客様は、特に個人情報を開示されなくともトプコンホームページでご提供するほとんどのサービスをご利用になれます。（一部のサービスにつきましては、お客様に個人情報のご提供をお願いすることがあります。）株式会社トプコン（以下「当社」といいます）は、トプコンホームページ（以下「当サイト」といいます）のご利用者であるお客様の個人情報を尊重し、その保護に努めております。

#### お客様へのお願い

当サイトにリンクされている当社以外のウェブサイトにおけるお客様の個人情報の収集、取扱、安全確保につきましては、当社はいかなる責任も負うものではありません。当社以外のウェブサイトにおける個人情報の保護につきましては、お客様ご自身でその内容をご確認またはお問合せください。

### 2.個人情報をお聞きするとき

お客様に個人情報をお聞きするのは、次のような場合です。

1. セミナー、展示会等への参加お申込みの場合。
2. 商品やサービスに関する資料等をご請求される場合。
3. 商品やサービスに関するご質問・お問合せをされる場合。
4. 採用活動等に関連して、ご登録や資料等を請求される場合。
5. アンケート調査等へご協力いただく場合。

ここでいう個人情報とは、氏名、住所、電話番号、eメールアドレス等のお客様ご自身を識別することができる情報をいいます。

### 3.個人情報の利用目的

当社は、お客様から個人情報をご提供いただく場合、あらかじめ個人情報の利用目的を明示し、その利用目的の範囲内で利用します。

あらかじめ明示した利用目的の範囲を超えて、お客様の個人情報を利用する必要がある場合は、お客様にその旨をご連絡し、お客様の同意をいただいた上で利用します。尚、当社の保有する個人情報の利用目的については、[個人情報利用目的](#)をご覧ください。

### 4.個人情報の第三者への開示・提供

(1)当社は、お客様のご承諾を得ないで、第三者にお客様の個人情報を開示または提供することは一切行いません。しかし、次のような場合、当社の関係会社、代理店等、業務委託先その他の第三者へ、お客様の個人情報を開示、提供または預託する場合があります。

1. お客様に、商品やサービスまたはそれらに関する各種情報や資料をご提供するために必要な場合。
2. お客様から製品やサービス、情報等の提供を求められ、当社がその実現のために必要と認めた場合。
3. 法令等により要求される場合、または公共の利益を保護するために必要な場合。
4. お客様個人を識別することができない範囲内や状態で開示する場合。
5. お客様、当社または第三者の正当な利益を保護するために必要な場合。

(2)当社は、お客様からの商品や修理・サービスに関するお問い合わせ等に対し、当社の関係会社や代理店より対応させていただくことが適切と判断される場合に、お客様の住所、氏名、電話番号等を当該関係会社等へ提供することがあります。この場合、お客様は当社に対し当該関係会社等への個人情報提供の停止を請求することができます。

## 5.個人情報の開示等の請求手続き

当社は、保有するお客様ご自身の個人情報について、1)開示の請求、2)利用目的の通知の請求、3)訂正の請求、4)追加の請求、5)消去の請求、6)利用の停止または第三者提供の停止の請求に対応させていただいております。請求様式(書面)等の詳細につきましては[開示等の請求手続き](#)をご覧ください。

## 6.個人情報に関するお問い合わせ

当社の個人情報保護に関するお問合せはトプコン[個人情報保護全社相談窓口](#)にお願いいたします。

## 7.その他の事項

1. 本『個人情報保護方針』は、株式会社トプコンの日本国内における個人情報の取り扱いに関するものです。当社の国内関係会社、および海外現地法人は対象としていません。
2. 当社がご提供する一部のサービス(当社が運営するウェブサイトのサービスを含む)では、お客様から個人情報をご提供いただけない場合はご利用できないものがありますので、あらかじめご了承ください。
3. 16歳未満のお客様は、保護者の方の同意を得た上で、個人情報をご提供いただきますようお願いいたします。
4. 当社では、より良くお客様の個人情報の保護を図るために、または、関係法令の変更に伴い、個人情報保護方針を改定することがあります。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [CSRに関する主な方針](#) > トプコン本社及びトプコンテクノハウス本社の環境方針

## トプコン本社及びトプコンテクノハウス本社の環境方針

---

トプコン本社及びトプコンテクノハウス本社は、精密光学機器を生産、販売する企業として、「“かけがえのない地球”環境を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、事業行動基準、環境影響評価・関係法令等に基づき、環境活動に関するトプコン本社及びトプコンテクノハウス本社の環境方針を次の通り定めます。

- 1) 環境問題への取組みを、経営の最重要課題の一つとして位置付け、経営者から一般社員まで全員参加の環境マネジメントシステム・組織体制を整備するとともに、環境目的・目標を設定し、継続的な改善及び汚染の予防を図ります。
- 2) 関係法令・条例・指導基準・協定及び受け入れたその他の要求事項等を順守するとともに、より厳しい自主基準を設定し、管理徹底に努めます。
- 3) 環境負荷低減、生物多様性保全のための重点項目として、以下の目標を設定し活動します。
  - (1) 省資源、省エネルギー、再資源化等に配慮した環境調和型製品の開発をおこないます。
  - (2) 有害化学物質の削減及び化学物質の管理の改善をおこないます。
  - (3) 廃棄物の排出削減に注力するとともに、循環資源として価値の向上を図ります。
  - (4) 省エネルギー活動を推進し、二酸化炭素の排出を削減します。
- 4) 構内周辺も含めた美化に努めるとともに、地域活動への積極的参加をおこない、地域社会との連帯・協調を図ります。
- 5) 環境教育及び広報活動の充実による社員意識の向上と、全員参加による環境活動の向上を図ります。
- 6) トプコングループ全体のレベルアップを目指して、関係会社等に対して計画的及び積極的な指導・支援をおこないます。

制定:1997年2月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [CSRに関する主な方針](#) > トプコングループ人財育成基本方針

## トプコングループ人財育成基本方針

---

1. トプコングループは、人財こそが、最も大切な資産であると位置づけ、多様な属性を有する社員に能力伸長と自己実現の機会を提供し、その資質を最大限に発揮させます。
2. トプコングループは、専門性を有する人財、グローバル性を有する人財\*を計画的に育成します。
3. トプコングループは、期待する人財像(行動特性&価値観)を明確にし、全社員と認識を共有します。
4. トプコングループ各社は、人財育成基本方針に準拠し、自社の業態・規模等にマッチした人財育成体系及び具体的計画を策定し、社員に周知するとともに、これを実行します。

### \* グローバル性を有する人財

トプコングループの経営理念を共有し、異文化を受容しながら、すべてのステークホルダーと直接的なコミュニケーションがとれ、業務を遂行できる人財

制定:2010年4月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [社会・環境活動\(CSR\)](#) > [CSRに関する主な方針](#) > トプコングループ安全健康基本方針

## トプコングループ安全健康基本方針

---

トプコングループは、社員の安全と健康の確保を経営の最重要課題の一つと位置づけ、「安全で快適な職場環境づくりと心身の健康の保持増進」を推進します。

1. 労働安全衛生関係法令・指針・通達等を遵守します。
2. 次の事項について、目標・目的を定め、実行します。
  - (1) 業務に起因する災害や疾病の撲滅ならびにこれらを誘発するリスクの低減
  - (2) 全社員が個々の能力を充分発揮するための心身の健康保持増進
3. 私たちの安全健康に関する取り組みや成果を積極的に公表し、社会の安全健康管理水準の向上に貢献します。

制定:2009年1月

[CSRに関する主な方針のTOPへ戻る](#) ↩

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



TopPage > 投資家情報

## 最新決算情報

2010年3月期決算(4月28日)

[決算短信](#) [PDF: 619KB]

[決算説明会資料](#) [PDF: 790KB]

[プレゼンテーションの要旨](#) [Q&A](#)

[音声配信\(36分\)](#) (別ウィンドウで開きます)

## 最新情報

[RSSについて](#)

### お知らせ

2010年7月6日

平成23年3月期第1四半期決算は7月30日(金)15:00頃発表予定です。内容につきましては、当日夕刻当ホームページに掲載いたします。

### IRニュース

2010年6月29日

[臨時報告書を掲載しました。](#)

### IRニュース

2010年6月28日

[第117期有価証券報告書を掲載しました。](#)

### IRニュース

2010年6月25日

[第117期定期株主総会決議ご通知を掲載しました。](#)

### IRニュース

2010年6月25日

[第117期株主通信を掲載しました。](#)

[IR関連情報 一覧 >>](#)



### 経営方針

- [経営戦略・事業戦略](#)
- [経営体制](#)
- [IRポリシー](#)
- [コーポレートガバナンス](#)



### 財務・業績指標

- [業績ハイライト](#)
- [セグメント情報](#)
- [その他の指標](#)
- [貸借対照表](#)
- [損益計算書](#)
- [1株当り情報](#)



### IRライブラリー

- [決算短信](#)



### 株式情報

- [大株主・配当金の推移等](#)

## トップメッセージ



## 最新プレゼンテーション

中期経営計画2012(5月28日)

[プレゼンテーション資料](#)

[PDF: 2,432KB]

[プレゼンテーションの要旨](#)

[Q&A](#)

[音声配信\(43分\)](#) (別ウィンドウで開きます)

## 株価情報

07/23

東証1部

現在値

前日比

売買高  
(千株)

### ▶ 株価詳細

\* 株価は20分遅れの情報です。

情報提供: QUICK



### IRメール配信

IRメールニュースをお届けします

## 最新資料

最新IR資料一括ダウンロード:

6,258KB

[平成22年3月期決算短信](#) [PDF: 619KB]

(2010年4月28日更新)

[第117期株主通信](#) [PDF: 2,109KB]

(2010年6月25日更新)

[第117期有価証券報告書](#) [PDF: 912KB]

(2010年6月28日更新)

[2010年3月期決算説明会](#) [PDF: 790KB]

(2010年4月28日更新)



[中期経営計画2012](#)[PDF:

2,432KB]

(2010年5月28日更新)

- [説明会資料](#)
- [株主関係手続き](#)
- [株主通信\(事業報告書\)](#)
- [株主総会](#)
- [有価証券報告書](#)
- [ファクトブック](#)
- [インベスターズガイド](#)
- [会社案内](#)



Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [投資家情報](#) > 個人投資家のみなさまへ

個人投資家のみなさまに、トプコンの業績や事業活動などをより一層ご理解していただくためのページです。



#### 社長のごあいさつ



私たちが目指しているものや、経営に対する姿勢、考え方をお話します。

CLICK!

#### トプコンについて



私たちの行う事業の内容、歴史や強みなどを紹介します。

CLICK!

#### IRライブラリー



決算短信、有価証券報告書、株主通信などの、投資に関わる資料を紹介しています。

CLICK!

#### 財務データ



業績ハイライトやセグメント情報など、財務にまつわるデータを公開しています。

CLICK!

#### 株式について



株式に関する手続きや、配当に関してなどの情報をお知らせいたします。

CLICK!

#### お問い合わせ・FAQ

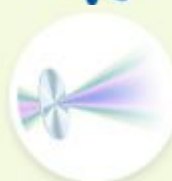


私たちへの問い合わせの方法やよくある質問などをご紹介します。

CLICK!



もっとトプコン！トプコンの技術情報や環境活動についてもっと詳しくご紹介！



#### トプコンを支える技術

光学技術とデジタル技術を融合したトプコンの技術の一部をご紹介します

CLICK!



#### 環境への取り組み

“かけがえのない地球”環境を、次世代に引き継いでいくために

CLICK!

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [会社情報](#) > [経営理念](#)

## 経営理念

---

トプコンは企業活動を通じて広く人類社会に貢献します。

### 経営方針

1. トプコンは一流の国際企業を目指します。
2. トプコンは公正な企業運営により利潤を上げて社員、株主並びに社会に報います。
3. トプコンは社員が自主創造力を最高に発揮し得る環境造りに努めます。
4. トプコンは顧客指向に徹し、高性能・高品質の商品を適正な価格で顧客に提供します。
5. トプコンは地域社会との連帯協調により良き企業としての成長を図ります。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > [投資家情報](#) > [経営方針](#) > [コーポレートガバナンス](#)

## コーポレートガバナンス

### 1.コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

企業は社会の公器であって、単に自由競争を通じて利潤を追求する経済的主体であるだけでなく、広く社会にとって有用な存在でなければならないと認識しております。従い、当社にとってのコーポレート・ガバナンスとは、「経営の健全性の維持」「経営の透明性の確保」に加え、「経営効率の向上」を正しく達成し、当社企業経営に関わるすべてのステークホルダーを視野に入れ、それらに対する社会的責任を果たしていくことである、と考えております。

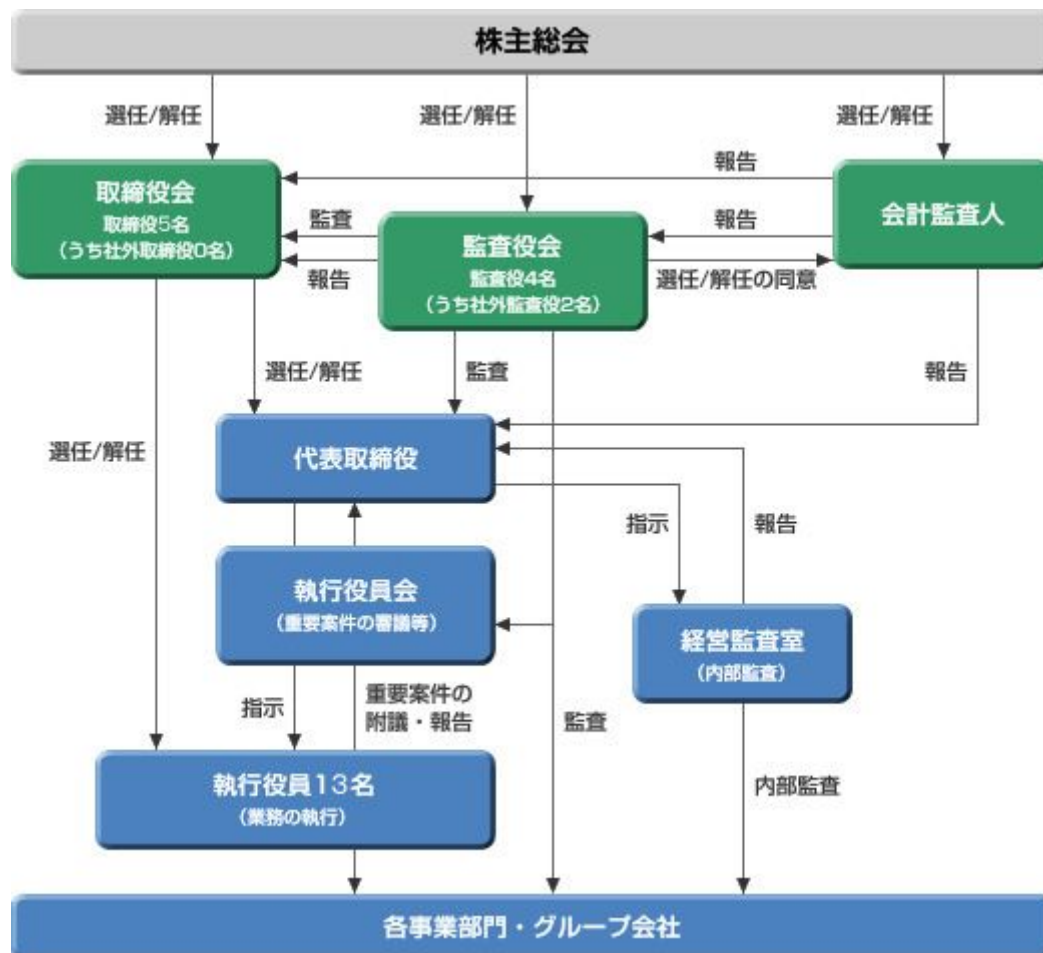
### 2.ガバナンス体制

トプコンは、執行役員制度を採用し、これに日常の業務執行を委ねています。取締役・取締役会による監督機能と、執行役員による業務執行機能を分離することにより、経営環境の急速な変化に適時適正に対応できる体制をとっております。取締役会を毎月1回(その他臨時に)開催し、経営の基本方針、法令・定款に定めのある事項、その他経営に関する重要事項について審議し、報告を受けて、監督機能の強化に努めております。

取締役・監査役・執行役員が出席する執行役員会を毎週開催し、事業環境の分析や、中期経営計画や予算等の審議・遂行状況報告等の情報の共有化、会社の重要意思決定事項の審議、コンプライアンス(法令遵守)活動の趣旨徹底等、多様な議論を行い、経営判断の公正化・透明化に役立てております。

また、社長直属の内部監査組織である「経営監査室」を設け、適法かつ適正・効率的な業務執行を確保するための体制を整えております。監査役・監査役会による会計監査・業務監査、会計監査人による会計監査及び上記内部監査を行っており、相互の連携を図り効率的な監査体制のもと、徹底した監査に努めております。

#### トプコンのコーポレートガバナンス体制



### 3.関連資料

[定款\(2006/6/29\)](#) 129KB[コーポレート・ガバナンスに関する報告書\(2010/3/31\)](#) 252KB[業務の適正を確保するための体制に関する取締役会の決議について\(2006/5/25\)](#) 14KB[適時開示に係る宣誓書、適時開示体制概要書\(2006/6/29\)](#) 166KB

(別ウィンドウで開きます)

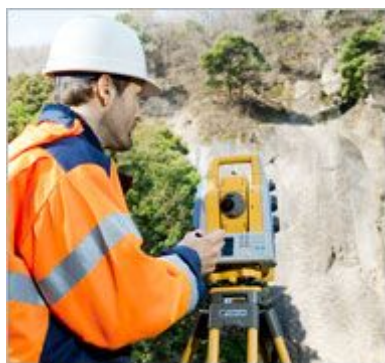
PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。

[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



## ▶ ポジショニング



測量、土木・建設分野向け測量機器、マシンコントロール機器、移動体制御分野および精密農業分野

## ▶ アイケア



検査、診察、治療機器等の眼科医療向け機器および視力測定、レンズ加工装置の眼鏡店向け機器

## ▶ ファインテック



半導体関連の検査機器、FPD関連の露光装置・計測機器および各種光学ユニット

## ▶ カテゴリ別

GNSS  
トータルステーション  
3Dスキャナー／イメージング  
マシンコントロール  
データコレクタ  
ソフトウェア／アプリケーション  
レーザー  
セオドライト・レベル  
精密農業

## ▶ 利用分野別

測量  
土木・建築  
3次元計測  
GIS  
精密農業  
移動体制御

## ▶ 診断機器

3次元眼底像撮影装置  
眼底カメラ  
ウェーブフロントアナライザー  
スリットランプ  
スペキュラーマイクロスコープ  
眼圧計  
その他

## ▶ 屈折検査装置

オートレフラクト・オートケラトメータ  
ビジョンテスター  
ビノビジョンアナライザー  
レンズメーター・レンズチェッカー  
視力標  
コミュニケーションシステム  
トライアルレンズセット

## ▶ レンズ加工機器

レンズエッジャー  
周辺機器  
環境配慮機器

## ▶ 手術・治療機器

手術用顕微鏡  
治療機器

## ▶ 診療ソリューション

眼科診断支援システム  
眼科用電子カルテシステム

## ▶ 光学電子台他

テーブル

## ▶ 半導体検査装置

ウェーハ表面検査装置  
チップ外観検査装置

## ▶ FPD関連装置

液晶用プロキシミティ露光装置  
R&Dプロキシミティ露光装置  
輝度計類  
照度計類

## ▶ 電子顕微鏡

走査電子顕微鏡

## ▶ 測定顕微鏡

工具顕微鏡  
工場顕微鏡  
データ処理装置

## ▶ 3次元画像計測

3Dイメージメジャラー

## ▶ 光学ユニット

複写機光学系ユニット  
プロジェクター用光学エンジン  
車載カメラ

## ▶ 光学部品

DVD・CD用光学部品  
赤外フィルター







TopPage > 社会・環境活動(CSR) > 環境報告追加情報

## 環境報告追加情報

このページでは、CSR報告書に掲載し切れない詳細な情報や、最新の情報等を掲載しています。

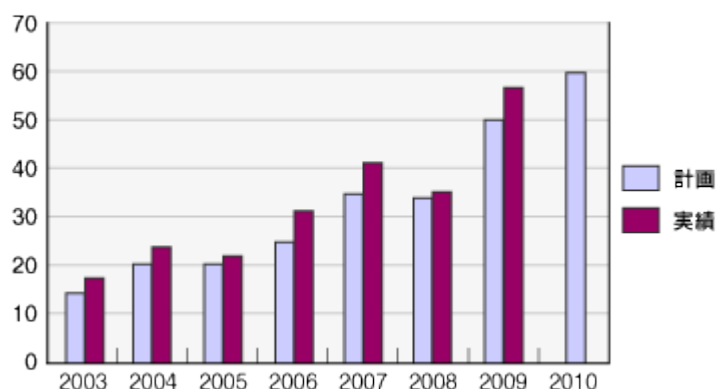
### ◆環境調和型製品(ECP)への取り組み

#### ※ 環境調和型製品の開発

トプコンは、環境に配慮した製品づくりを推進するため「トプコン製品の環境自主基準」を策定し、省資源・省エネルギーはもちろんのこと、ライフサイクル毎の環境目標や基準を設定し、製品アセスメントをおこなっています。

そして、一定水準以上の「トプコン製品の環境自主基準」を満たす製品を、環境調和型製品(Environmentally Conscious Products : ECP)として認定し、お客様に提供しています。2009年度までにECPは 43製品群を数えるまでになりました。今後さらにECPの開発を促進するため、トプコングループ環境ボランティアプランでは、2010年度までにECPの販売比率を総販売台数の60%とすることを目標としています。

総販売台数に対する環境調和型製品の販売比率推移



### ◆トプコン製品の環境自主基準

ライフサイクル	環境自主基準
部品・部材調達	グリーン調達の実施。 自主禁止物質 PCB、アスベスト、特定フロン、特定臭素系難燃剤(PBB,PBDE)を使用しない。 電池は水銀、ニカドを使用しない。
製造プロセス	オゾン層破壊物質(ODS)である特定フロン、トリクロロエタン、HCFCを使用しない。 鉛、六価クロムの削減について使用量を把握。
製品流通	梱包材にシュリンクパックを使用しない。 梱包用ダンボールに古紙(再生紙)を使用。 緩衝材および保護袋にPVCを使用しない。
お客様による使用 (製品仕様)	省エネルギー機能を保有。省エネルギーに関する情報を取扱説明書に記載。 前機種に比較して機能数による消費電力の削減。
使用済み製品のリサイクル	25g以上のプラスチックにはISO1043 (JIS K6899)、ISO11469(JIS K6999)による材料表示を行う。 マテリアルリサイクルに適したプラスチックPP,PS,PE,PC,AS,ABSを80%以上使用。 分解が容易(ユニットレベルまでドライバーで分解可)。 廃棄時の処理に必要な情報を取扱説明書に記載。
その他、環境配慮項目	環境配慮事項をインターネット、マニュアル、カタログ等に掲載。 LCAによるCO <sub>2</sub> を把握し、マニュアル、カタログ等に記載。 マニュアル等は古紙の含有率70%以上またはエコマーク認定の再生紙を使用。 製品アセスメントを実施しており前機種同等またはより改善されている。

用語解説 LCA: ライフサイクル・アセスメントの略。製品の製造、輸送、使用、廃棄、リサイクルなど製品のライフサイクル各段階を通して環境影響を定量的、客観的に評価する手法

## ◆2009年度までのECP製品

## \* ポジショニング・ビジネスユニット製品群

- トータルステーション GTS-750
- パルストータルステーション GPT-3000
- パルストータルステーション GPT-3100
- パルストータルステーション GPT-7000/7000L
- パルストータルステーション GPT-7000HiPer
- パルストータルステーション GPT-7500
- 自動追尾パルストータルステーション GPT-8200A
- パルストータルステーション GPT-9000A
- データコレクター FC-100
- データコレクター FC-200
- マシンコントロール用レーザーセンサー LS-B100
- レーザーセンサー LS-B10
- ローテティングレーザー RL-H3CL
- ローテティングレーザー RL-VH3D
- ローテティングレーザー RL-100
- デジタルセオドライト DT-200

## \* アイケア・ビジネスユニット製品群

- 無散瞳眼底カメラ TRC-NW8
- 無散瞳眼底カメラ TRC-NW300
- スリットランプ SL-D2, D4, D4Z
- スペキュラーマイクロスコープ SP-3000P
- オートレフラクトメータ RM-8800
- オートレフラクトメータ RM-8900
- オートケラトレフラクトメータ KR-8800
- オートケラトレフラクトメータ KR-8900
- コンブビジョン CV-5000
- オートチャートプロジェクター ACP-8
- レンズメータ CL-200
- レンズメータ LM-8
- コンピュータレンズメータ CL-2800
- レンズチェッカー EZ-200
- フレームリーダー FR-5000
- デオドラントユニット DU-2
- フィルターシステム FS-100D
- 手術用顕微鏡 OMS-710

## \* ファインテック・ビジネスユニット製品群

- ウェーハ表面検査装置 WM-7
- ウェーハ表面検査装置 WM-10
- ウェーハ表面検査装置 WM-5000
- チップ外観検査装置 Vi-3200
- 分光色彩計 SC-777

合計 39製品群

2009年度は下記4製品群を追加しました。

- ウェーブフロントアナライザー KR-1W
- 3次元眼底像撮影装置 3D OCT-2000, 2000 FA
- 手術用スリット照明装置 MS-SI01
- 紫外線強度計 UVR-300

CSRのTOPへ戻る ↩

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





TopPage > 投資家情報 > 個人投資家のみなさまへ > 環境への取り組み

トプコングループは「かけがえのない地球」環境を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って環境保全活動を技術的、経済的に可能な範囲で推進するべく、基本方針を定め、取り組んでいます。こちらのコーナーでは、環境の取り組みの具体的な一部を紹介します。

#### 製品づくりによる環境への取り組み

- 1
  - 環境調和型製品の開発
  - グループボランタリープラン2010  
(環境調和型製品の販売拡大)

[詳しくはこちら](#)

- 2
  - 主な環境調和型製品

[詳しくはこちら](#)

- 3
  - 環境貢献型製品

[詳しくはこちら](#)

- 4
  - 代表的な環境貢献型製品

[詳しくはこちら](#)

#### 有害化学物質削減への取り組み

- 化学物質の管理

[詳しくはこちら](#)

#### ゴミゼロへの取り組み

- 1
  - 埋め立てゴミゼロへの取り組み
  - 金属切り粉の有価化について
  - ボランタリープラン2010

[詳しくはこちら](#)

- 2
  - 関係会社のゼロエミッションへの取り組み

[詳しくはこちら](#)

- 3
  - 社内のゴミを  
リサイクルするしくみ

[詳しくはこちら](#)

#### CO2削減への取り組み

- グループボランタリープラン2010
- トプコンが省エネのためにしていること

[詳しくはこちら](#)

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [投資家情報](#) > [個人投資家のみなさまへ](#) > [環境への取り組み](#) > [製品づくりによる環境への取り組み\(1\)](#)

## 製品づくりによる環境への取り組み(1)

### 環境調和型製品の開発

トプコンの環境に配慮した製品の開発は、これまで省資源・省エネルギーを中心に活動を行ってきました。しかし、より環境負荷の少ない製品を開発するためには、製品のライフサイクル(製品がつくられ、使われ、廃棄されるまで)全般において、環境に配慮する必要があります。

トプコンでは、「トプコン製品の環境自主基準」を策定し、ライフサイクル毎の環境目標や基準を設定し、製品の環境影響評価を行っています。

トプコンの「環境調和型製品」は2009年度までに43製品群を数え、総販売台数の50%を超えるまでになりました。今後は次のページでご紹介する「環境貢献型製品」の性格も兼ね備えた製品づくりを通して、環境負荷の低減を目指して行きます。

詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

### グループボランタリープラン2010(環境調和型製品の販売拡大)

トプコングループは環境調和型製品の提供において2010年度までに下記の項目の達成を目指しています。

活動項目		指標	基準	目標値
環境調和型製品の提供	ECPの増出	ECP販売台数比率	総販売台数	60%
	消費電力の削減	機能あたり消費電力削減率	前機種	20%
	有害物質の削減	製品含有特定15物質群	新規開発品	全廃

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



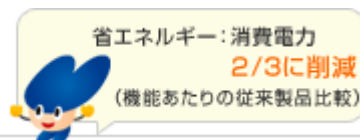
TopPage > 投資家情報 > 個人投資家のみなさまへ > 環境への取り組み > 製品づくりによる環境への取り組み(2)

## 製品づくりによる環境への取り組み(2)

### 主な環境調和型製品



イメージングステーション IS



イメージングステーションIS2は望遠鏡部に2つのデジタルカメラを搭載し自動追尾機能を有したトータルステーションです。ベースとなったトータルステーションに対して、デジタルカメラ画像を応用した観測・計測、タッチドライブによる直感的な旋回・視準、アシストフォーカス機能による合焦、ノンプリ高速スキャンによる3次元データ取得など、従来に無い新しい機能の追加を行っております。また、無線LANの搭載で、観測者へトータルステーションの視準画像を転送し、画像振向き機能や画像上での追尾ロスト時の再ロック、設計データを画像上に重ねて表示する機能など、作業性の向上をはかりながら機能あたりの消費電力も約2/3としました。もちろん、他機種との主要部品の共通化も実現しております。



レーザーセンサー LS-B110/110W



LS-B110/B110Wは土木、農業向けマシンコントロール用レーザーセンサーです。信頼性の高いダブルクランプを採用しながらも20%の軽量化を実現しました。<sup>\*1</sup> 検出長が1.25倍、LED明るさを4倍、さらに、オフセット機能、鉛直インジケータ機能、無線によるリモートディスプレイ(B110Wのみ)の新機能により作業効率を向上させました。これらの機能を向上させながら消費電力を従来機種に対して25%削減しました。<sup>\*2</sup>

\*1:LS-B4との比較

\*2:無線使用時を除く実使用参考値





ローテーティングレーザー RL-100 1S/2S

省エネルギー：消費電力の  
**削減53%**  
(従来機種比)

RL-100 1S/2S は傾斜面造成の施工に使用する回転レーザー機器です。25%までの傾斜勾配が設定可能で、半径400mと広範囲で使用できます。(当社従来比約115%) リモコンRC-400を使用すれば300m離れた場所からでも操作可能で、回転レーザーの電池不足警告等が手元で確認できる便利な機能を有します。内部機構にはアブソリュートエンコーダを使用した傾斜検出システムを採用しており、高い精度の角度設定を可能としながらも消費電力は従来比約47%を達成しています。



3次元眼底像撮影装置 3D OCT-2000

省エネルギー：消費電力の  
**削減62%**  
(従来機種比)

OCT: Optical Coherence Tomography (光干渉断層計) は、光の干渉現象を用いることによって、生体などを断層画像として観察・測定できる装置です。

従来機種はパソコンにて撮影条件の設定や画像データの解析、レポートの出力までを行っていましたが、3D OCT-2000では、撮影から解析、レポート出力までを本体だけで行えるため、パソコンを含めたシステム構成での比較で、消費電力を62%削減しました。また、本体とは別置きであった分光器を本体と一体化したことによって、包装材料体積も35%削減しました。



ウェーブフロントアナライザー KR-1W

省エネルギー：消費電力の  
**削減58%**  
(従来機種比)

ウェーブフロントアナライザーは、従来の屈折度数測定に加え、眼鏡では矯正しきれない不正乱視成分までを簡単に測定し、

解析及び総合評価が行える装置です。

従来機はパソコンで解析を行いましたが、KR-1Wでは、本体で解析を行うことができ、パソコンを含めたシステム構成での比較で、消費電力が58%削減されました。また、装置の小型化、梱包材を発泡ウレタンから発泡スチロールに変更したことで、包装材料体積も約45%削減しました。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [投資家情報](#) > [個人投資家のみなさまへ](#) > [環境への取り組み](#) > [製品づくりによる環境への取り組み\(3\)](#)

## 製品づくりによる環境への取り組み(3)

### 環境貢献型製品

トプコンの**環境調和型製品**(ECP)自主基準では、使用時の消費電力、リサイクルのしやすさ、小型化による資源の有効利用など製品が**直接及ぼす環境影響**を評価していました。

環境調和型製品以外に、いくつかの製品では、その製品を使用することにより**間接的に環境負荷が大きく低減**されるものがあります。

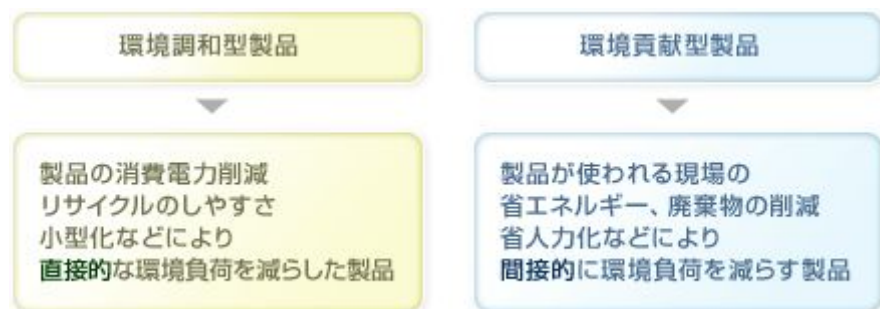
このような製品は、環境改善に貢献するため**環境貢献型製品**と呼んでいます。

トプコンの製品を図式的に表してみます。

実際には環境貢献型と環境調和型を両立している製品も多くあります。



### 製品による環境負荷低減とは



#### 【環境貢献型製品の一例(3次元マシンコントロールシステム)】

##### ■ 従来の施工

独立したデータ作成、管理

測量 → 設計 → 測設 → 施工 → 検査

##### ■ 3次元マシンコントロールシステム

設計データを活用して重機の排土板高さを**自動制御**

測量 → 設計 → 測設・施工・検査を融合

デジタルデータ

- 測量データをデジタル化して設計するから → 省資源、省エネ
- デジタルデータで施工準備を省略できるから → 省資源、省エネ
- 重機を自動制御して施工するから → 省資源、省人力
- デジタルデータで検査するから → 省エネ、省人力





Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [投資家情報](#) > [個人投資家のみなさまへ](#) > [環境への取り組み](#) > [製品づくりによる環境への取り組み\(4\)](#)

## 製品づくりによる環境への取り組み(4)

---

トプコンは、今後の環境保全活動の進むべき方向の一つとして、環境貢献型製品について働きかけを行っていきます。各ビジネスユニットの代表製品の環境貢献度について説明します。

### 代表的な環境貢献型製品

---



#### 1 製品：マシンコントロールシステム

GPSにより土木機械のコントロールを行うので、作業効率の向上が図れる。廃棄物の発生も抑制され、燃料(エネルギー)削減、工期短縮による省エネルギー効果がある。



#### 2 製品：3D-OCTシリーズ

3次元で眼底を撮影でき、より正確な検査が行えるため、眼科疾患の早期発見・治療により患者の負担を軽減できる。また、データの電子化により、紙(資源)の削減、写真現像液(化学物質)等による環境負荷を低減できる。



#### 3 製品：チップ外観検査装置

不良品の発生抑制により、製造のための材料、エネルギーなどが削減できる。自動検査、高スループットにより、クリーンルームの効率的な運用が可能になる。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.

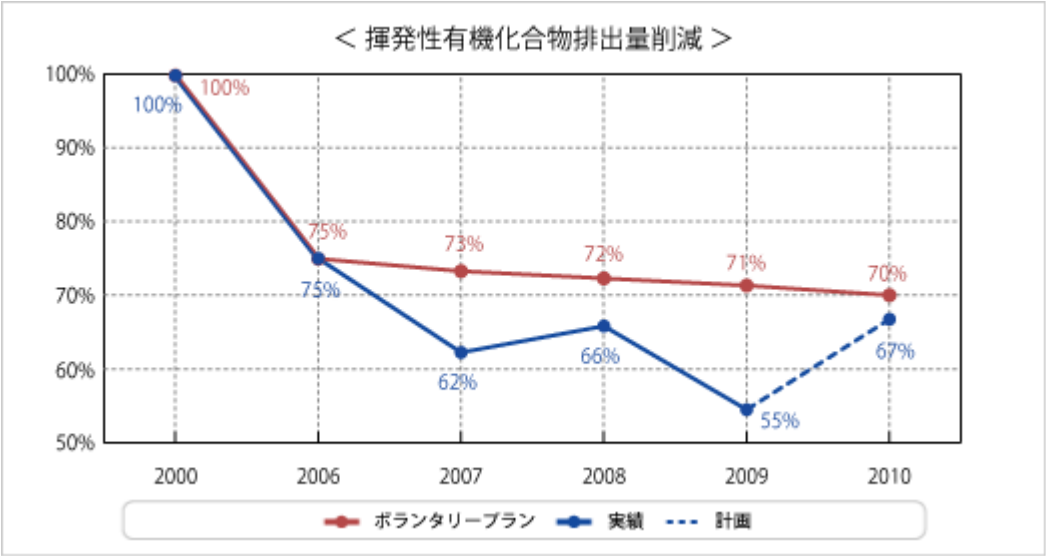


TopPage > 投資家情報 > 個人投資家のみなさまへ > 環境への取り組み > 有害化学物質削減への取り組み

有害化学物質削減への取り組み

化学物質の管理

2009年度揮発性有機化合物（VOC）排出量削減は、既にボランタリープランの目標を達成していますが、化学物質管理委員会が中心となって、更なる削減活動に取り組んでいます。今後は生産量増大が予想されることから、連動しての増加を考慮し目標を設定します。



	2000 基準	2006 実績	2007 実績	2008 実績	2009 実績	2010 計画
VOC排出量(kg)	18,711	13,966	11,534	12,325	10,293	12,500

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > [投資家情報](#) > [個人投資家のみなさまへ](#) > [環境への取り組み](#) > [ゴミゼロへの取り組み\(1\)](#)

## ゴミゼロへの取り組み(1)

### ゼロエミッションの定義

当社は2001年12月に「ゼロエミッション(廃棄物ゼロ)」を達成しました。ここでいう「ゼロエミッション」を、トプコングループでは次のように定義しています。「事業活動により排出される排出物の内でリサイクルや焼却による減容化など中間処理をおこなったあとの実際に埋立処分される量を総排出量の1%以下とすること。」

### 埋め立てゴミゼロへの取り組み

当社は2001年12月に「ゼロエミッション(廃棄物ゼロ)」を達成し、その後は「排出物総量の削減」に取り組んできました。排出物総量は、事業活動の拡大、商品ライフサイクルの短縮化、顧客からの下取品等年々増加の一途を辿っています。排出物総量の削減対策としては、2003年2月から実施している新聞紙、再生紙、ダンボールの有価化に加え、2004年度は、2003年度の終わりから取り組んできました廃アルカリの減容化および金属切り粉の有価化等が軌道に乗りました。



#### ■ アルカリ洗浄廃液の減容化について

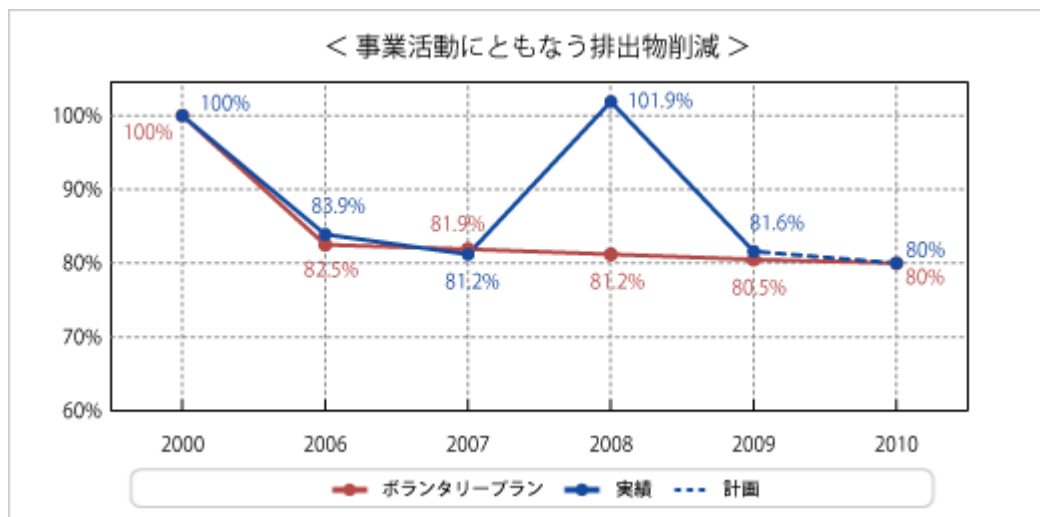
減圧蒸留方式の設備を開発・導入することにより、アルカリ性の光学レンズ洗浄排水を濃縮し、年間排出量を14tから5tと大幅に削減することが出来ました。余り濃縮しすぎると処分の負荷が高くなるので、5倍程度の濃縮を行っています。

#### 金属切り粉の有価化について

アルミニウムなど金属加工の際、排出される切り粉は有価物として売却し、各種金属材料としてリサイクルしています。なお有価物でも、運搬費などの方が大きくなる場合は産業廃棄物として適切に処理しています。

### 資源の有効利用

排出量総量を売上高で割った値を売上高原単位を称し、この尺度で削減活動に取り組んでいます。2006年度から有価物として売却したものも含め排出物総量とし、削減の対象としました。



	2000	2006	2007	2008	2009	2010
--	------	------	------	------	------	------

	基準	実績	実績	実績	実績	計画
売上高原単位	1.27	1.07	1.035	1.298	1.040	1.018
総排出量(t)	475	528	538	550	400	442

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [投資家情報](#) > [個人投資家のみなさまへ](#) > [環境への取り組み](#) > ゴミゼロへの取り組み(2)

## ゴミゼロへの取り組み(2)

### トプコン山形のゼロエミッション達成への道のり

トプコン山形では2009年4月にゼロエミッションを達成しました。達成への道のりは決して平坦ではありませんでした。担当者が取り組んだ活動をご紹介します。

1. 事務局による分別しやすい、分かりやすいゴミ箱作り
2. 「ゼロエミッションの基本は分別から」と一人ひとりに対する分別の徹底への啓発運動
3. 社員全員参加の5Sの推進
4. 廃棄物リサイクル業者の調査・交渉そして業者選定と委託契約締結
5. 業者訪問による適正処分の現地確認
6. 廃棄物品目と業者との委託契約内容の整合性の確認

ゼロエミッションは事務局だけでは決して成就するものではなく、社員、産業廃棄物業者、取引先等たくさんの方々の協力がなければ、達成することが出来ませんでした。



複合廃棄物



分別保管→リサイクル



手作りのリサイクルセンター



### トプコングループのゼロエミッション達成状況

社 名	達成時期
トプコン	2001年12月
トプコンサービス	2003年3月
オプトネクス本社	2006年1月
オプトネクス滝根工場	2007年5月
トプコン山形	2009年4月

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





TopPage > 投資家情報 > 個人投資家のみなさまへ > 環境への取り組み > ゴミゼロへの取り組み(3)

## ゴミゼロへの取り組み(3)

当社は板橋区環境保全賞の表彰式で3度受賞しました。

### 受賞歴

1999年	環境マネジメント部門
2006年	環境保全管理者部門
2007年	事業用大規模建築物廃棄物管理部門

また、当社は板橋区で最初にISO14001の認証を取得した事に加え、ゼロエミッション達成等の日頃の取り組みが高く評価されました。

### 社内のゴミをリサイクルするしくみ

リサイクルセンター中継所（社内に40カ所以上あります）  
社員はみんな自分でゴミを分別します。



新聞、雑誌、段ボール、書類、厚紙



ペットボトル、空きカン、空きビン、  
プラスチック、ちり紙、その他のゴミ

リサイクルセンター（中継所のゴミがここに集められます）



プラスチックは押し  
つぶして小さくします

RPF燃料に  
なります



発泡スチロールは  
溶かして固めます

プラスチックの  
原料になります



新聞、雑誌、書類は  
束ねて保管します

再生紙の  
原料になります



素材別に分けられ  
ないゴミは大型コンテ  
ナに保管します

ガス化熔融リサイクルで  
燃料になります





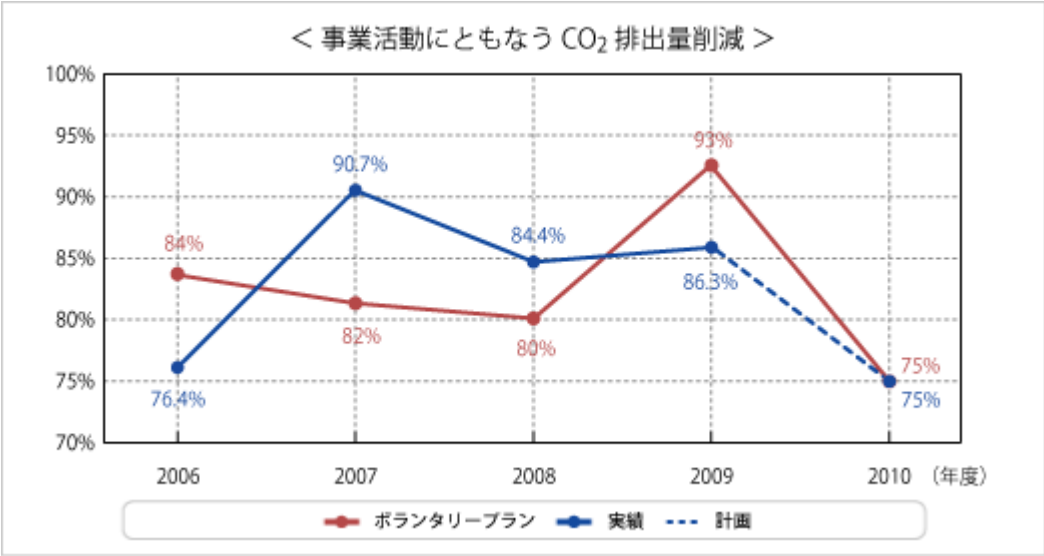


TopPage > 投資家情報 > 個人投資家のみなさまへ > 環境への取り組み > CO2削減への取り組み

CO2削減への取り組み

地球温暖化の防止

トプコンのCO2排出は9割以上が電力使用によるものです。昨年度まではCO2排出係数を1990年度の値に固定して算出していましたが、東京電力が2008年度の調整後CO2排出係数を公表したのに合わせ、実質的なCO2排出量となるように算出方法を改めました。この算出方式でのボランタリープラン達成を目指します。



	2006 実績	2007 実績	2008 実績	2009 実績	2010 計画
売上高原単位	9.23	10.96	10.20	10.43	9.06
CO2排出量 (t-CO2)	4,556	5,698	4,318	4,018	3,931

トプコンが省エネのためにしていること

地球温暖化の防止への取り組み

トプコンは地球温暖化防止に取り組んでいます。

一部の電球をLED照明に切替え



ショールームなど一部の天球を次世代照明として有望視されるLED照明に切替え、省電力によりCO2を削減し、地球温暖化防止を推





進。



### クリスマスイベントでグリーン電力を使用



### チャレンジ25キャンペーンへ参画



クールビズの実施をはじめチャレンジ25キャンペーンへ参画。また手作りの省エネポスターを作成し、夏・冬用共に社内130ヵ所以上に掲示しています。



### エアコンのクリーニング



洗剤で洗って、リフレッシュ



### 省エネ職場巡回



省エネルギー対策委員会メンバーによる定期職場巡回し、空調設定温度をチェック。

！ 天井灯スイッチの取り付け



席を外すときは、こまめに消灯

！ 室温管理ラベルの貼りつけ



冬は20度、夏は28度

！ 製品を通じた取り組み(ECP製品)



省資源、省エネルギー、再省資化に配慮した環境調和型製品を積極的に開発し、ユーザーに提供していきます。  
省エネルギー設計では前機種比20%削減の省電力を目指します。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [会社情報](#) > [品質保証活動](#)

## 品質保証活動

### ■総合品質保証方針

トプコンは、人類社会に貢献するとの経営理念に則って、関連する法令を遵守するとともに「顧客指向」及び「品質第一」に徹し、顧客が満足する高品質で安全な商品及びサービスを提供します。

トプコンは、市場に提供するすべての商品およびサービスについて、通常有すべき有益性と安全性の確保並びに法令及び契約に基づき瑕疵のない製品および役務を提供することを追及し、製造物責任(PL)事故および契約責任(CL)事故が生じないよう、不断の努力と最善の注意を払います。



### ■信頼の証:ISO9001認証取得

トプコンは、国際的な品質マネジメントシステムの規格である「ISO9001:2008」の認証を、全事業分野(医用機器製品、測量機器製品、測定機製品、半導体精機製品及び光学系ユニット製品)において、英国SGS United Kingdom Ltd Systems & Services Certification(国内はSGSジャパン(株))より取得しています。

この認証取得は、トプコンの品質保証体制が国際的に認められている証です。

トプコングループは、「ISO9001」の認証取得・維持を通じて開発・製造から販売・アフターサービスに至るまで“顧客第一”“品質第一”を目指し、常に改善を進めています。

今後も現状に満足することなく、より信頼される商品及びサービスを提供する努力を続け、国際企業としての責務を果たしていく所存であります。





認証登録の詳細については、こちらをご覧ください

・JAB審査登録証(写し)

 668KB

・UKAS Certificate (copy)

 641KB



(別ウィンドウで開きます)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Acrobat Readerが必要です。

[Acrobat Reader](#)はアドビシステムズ社より無償配布されています。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > 資材調達 / 資材基本方針

## 資材基本方針

---

### ◆基本方針

#### 公平、公正な調達活動

- 新しいお取引は、全てのお取引先に対し、オープンで、公平、公正な調達活動に努めます。
- お取引先の決定は、品質、価格、納期の確実性、技術水準、経営の安定性及び環境への配慮等、総合的かつ客観的な評価と手続きに基づいて決定致します。

#### 共存、共栄に努めます

- お取引先とは、お取引を通じて、常に信頼関係を維持・促進し、共存、共栄に努めます。

#### 遵法の原則

- 私達は、法律、社会規範を遵守し、健全な商習慣に則り取引を行います。

#### 情報の管理・保護

- 私達の購買活動によるお取引先とのお互いの機密情報は、外部に一切公開致しません。

### ◆資材調達の取組み



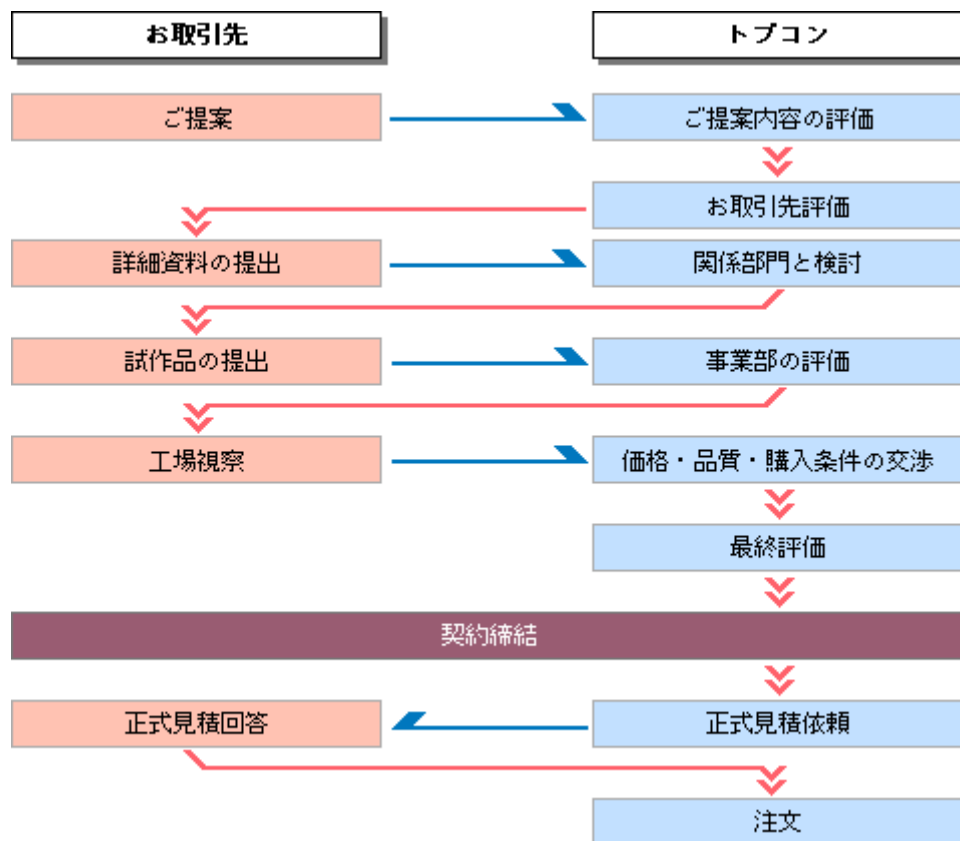
Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



[TopPage](#) > [資材調達](#) > お取引開始の手順

## お取引開始の手順

### 新規お取引までの手続き



※上記取引手順は標準です。実際の手続きについてはご提案品目により異なる場合があります。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.





[TopPage](#) > [資材調達](#) > [グリーン調達の取組み](#)

## グリーン調達の取組み

---

### ■グリーン調達基本方針

- [グリーン調達の考え方](#)

### ■海外環境法規制対応

- EU指令への対応 (RoHS指令、WEEE指令)
- 鉛フリーはんだの採用
- 六価クロムの代替
- 用語解説

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



TopPage > 資材調達 > グリーン調達の取組み > グリーン調達の考え方

## グリーン調達の考え方

### 目 的

トプコンは、「かけがえのない地球」環境を、健全な状態で次世代に引き継いでいく」という考えに立ち、環境に調和した商品作りのため、その一環として環境負荷が小さい製品・部品・材料・原料の調達（以下、グリーン調達という）を推進します。

グリーン調達の推進に当たっては、以下をねらいとしております。

- (1)環境保全活動を推進しているお取引先から調達すること
- (2)ライフサイクル(原材料調達、製造、流通、消費、廃棄等の各段階)における環境負荷が小さい製品・部品・材料・原料を調達すること

### トプコンの 取組み

#### (1)環境保全活動を推進しているお取引先からの調達

環境保全に対する活動はお取引先の自主的活動であることを基本としますが、必要に応じ、改善活動のお手伝いをさせていただいております。

グリーン調達に当たっては、ISO14001外部認証取得をはじめとする環境を配慮した活動に取り組まれているお取引先からの調達を進めていきます。

具体的には、ISO14001外部認証取得、グリーン調達、および環境保全活動に関するお取引先の取組みについて評価・判定します。

#### (2)環境負荷が小さい製品・部品・材料・原料の調達

トプコンは、調達品を下図に示すとおり品目特性で三つに分類(商品に関わる材料等の調達品、生産活動に関わる調達品、文房具等事務用品)しております。



図 トプコンのグリーン調達品の分類

#### 1)商品に関わる材料等の調達品についての取組み

商品に関わる材料等の調達品とは、「トプコンが販売する商品を構成する製品(システムコンピュータなどシステム構成品及びユニット品などを含む)・部品・材料で、調達するもの」を総称します。当社では、調達品の環境負荷低減に関する項目を具体的に定め、これらの項目について調査して、環境負荷がより小さい調達品の選定に努めます。

## 2) 生産活動に関わる調達品についての取組み

生産活動に関わる調達品とは、設備・治工具類と塗料、メッキ液、シンナー、アルコール等副資材を総称し、「水質・大気・騒音・振動等の環境事前評価」および「新規原材料の化学物質の事前評価」制度により、グリーン調達を推進します。

## 3) 文房具等事務用品についての取組み

筆記具、文房具、ファイル用品、ノート等については、特に会社の中で身近に使うことから、環境を配慮した事務用品拡大は従業員への環境に対する意識付けという意味で重要な活動と認識しています。このため、エコマーク認定品、再生材料使用品、再使用可能品、分別回収可能品、塩ビ材不使用品等、環境を配慮した事務用品調達の拡大を進めます。

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



TopPage > 資材調達 > グリーン調達の取組み > 海外環境法規制対応

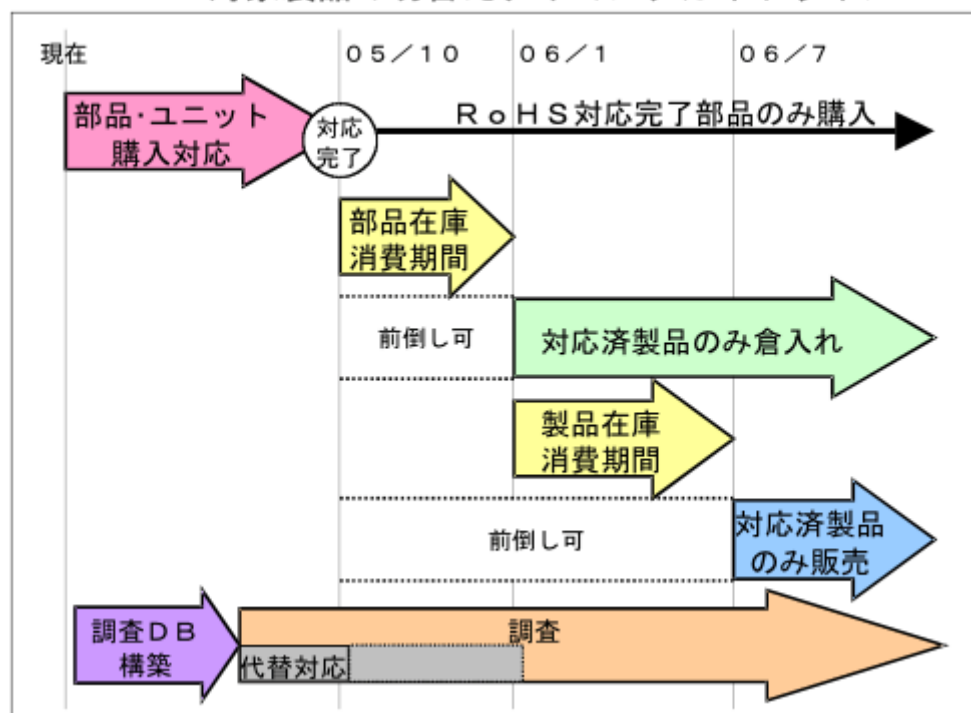
## 海外環境法規制対応

### EU指令への対応

EUで、廃電気電子製品のリサイクルを生産者に義務付けたWEEE指令と、鉛、カドミウム、水銀、六価クロム、臭素系難燃剤のPBB、PBDEの有害物質6種類の使用禁止を定めたRoHS指令が公布され、EU加盟25ヶ国で法制化が進められています。対象となる製品はまだ確定されていない状態ですが、トプコンでは製品の環境負荷を考慮して、基本的にEUで販売する全製品を対象に対応を進めています。

また、同様の法規制は中国、韓国、アメリカなどへも広がりを見せており、より広範囲の対応が必要となると考えています。特に、有害物質に関しては広範囲かつ詳細な調査と代替活動が必要となります。2003年度に調査対象を絞り込み、体制を整えましたので 2004年度初頭から全面的な調査を開始しました。

### RoHS対象製品の切替えタイミングガイドライン



次に、有害物質の廃絶に関する主な活動を紹介します。

### 鉛フリーはんだの採用

鉛を含むはんだ等を使用した電気電子製品は、その使用後に適切な処理をしないで廃棄すると、酸性雨などによって鉛が溶け出して、土壌や地下水を汚染する可能性があります。

トプコンでは環境ボランティアプランで「2004年度末までに全製品で鉛フリーはんだ採用」を掲げ全社的な活動を展開しています。鉛フリーはんだ(PDF: 32KB)の適用基板を用いた製品は2003年8月より、測量機器製品で量産、販売を開始しました。2003年度末までに5製品に展開しており、社内で生産している全基板の3割をすでに鉛フリーはんだ化しています。

2004年度は混載実装基板製品の鉛フリーはんだ化、全製品への展開、社外調達品の鉛フリーはんだ化を実施します。また、2005年度中に部品の鉛フリー化を実施し製品からの鉛廃絶を実現します。

### 六価クロムの代替

鉄系材料、アルミ系材料の錆止めに「クロメート」と呼ばれる表面処理(めっき)が施されています。一般のクロメート処理では、六価クロム化合物の膜が形成されます。この六価クロム化合物は徐々に水に溶け出るため、環境を汚染する可能性があります。



トプコンでは自社内での六価クロムによるクロメート処理の代替実験を行っており、2005年までには全ての六価クロメート処理を別の処理に代替します。また、対象製品に使用する購入品についても、2005年10月までに代替を完了させる予定です。

## 用語解説

WEEE、RoHS	2004年5月に加盟国が25カ国に拡大したヨーロッパ連合(EU)における電気電子製品に対するリサイクル義務及び有害物質の使用禁止を定めた指令
WEEE指令	<p>Directive of the European Parliament and of the Council on waste electrical and electronic equipment</p> <p>廃電気電子機器に関する欧州議会および理事会指令</p> <p>電気・電子機器廃棄物による資源消費と環境汚染の低減を目的とし、加盟国は、電気・電子機器廃棄物を一般の廃棄物と分別して回収システムを確立しなければならない。業務用製品の生産者には、回収・リサイクルの義務が発生し、また設定されたリサイクル情報の開示、リサイクル率の達成なども義務付けられる。</p> <p>最初は「ダブリュートリプルイー」と読む人もいたが、今は「ウィー」と読むのが一般的。</p>
RoHS指令	<p>Directive of the European Parliament and of the Council on the restriction of the use of certain hazardous substances in electrical and electronic equipment</p> <p>有害物質禁止に関する欧州議会および理事会指令</p> <p>電気・電子機器における危険物質の法規定を整備し、生産から処分に至る全ての段階で、環境や人の健康に及ぼす危険を最小化する事を目的としている。</p> <p>使用を禁止される6物質は、鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、難燃性プラスチックに用いられる臭素系難燃剤のポリ臭化ビフェニール(PBB)とポリ臭化ジフェニルエーテル(PBDE)である。</p> <p>「ロース」、「ローズ」あるいは「ロス」と読むのが一般的。</p>

Copyright © 1997-2010 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.



印刷する

[TopPage](#) > [資材調達](#) > 当社へのご提案

## 当社へのご提案

皆様の優れた部材を私たちに御紹介下さい。  
返信メールの御一報をお待ちしております。

お問い合わせいただく前に、[お問い合わせいただく前の注意](#)をお読みください。

★印がついた項目はお客様のお問い合わせにお答えするために必要な情報です。  
必ずご記入ください。

### ■調達品目の内容

- 加工部品単体(金属部品、プラスチック部品、光学部品)
- PC板実装品(電子部品、電気部品、機能部品)
- 調達部品からサブユニット組立まで
- 完成品(ハード設計、ソフト設計含む)

### ■提案票

#### 1.ご提案内容の概要を御記入下さい。

#### 2.ご提案の製品の 카테고리 を選択下さい。(3つまで選択できます)

- ☐ 電気部品 ☐ 電気機器・電源・装置 ☐ 情報機器  
☐ 電線・ハーネス ☐ 小物配線用部品 ☐ 電子部品(半導体を除く)  
☐ 半導体 ☐ プリント基板 ☐ ゴム・硝子・セラミックス  
☐ ガス・油・薬品・塗料 ☐ その他素材 ☐ 機械加工  
☐ プレス・板金 ☐ ダイキャスト ☐ 組立加工  
☐ 樹脂成形品 ☐ ねじ・機械部品 ☐ ハード設計・ソフト設計  
☐ 金型・治工具 ☐ 梱包材・副資材・消耗品 ☐ その他

#### 3.ご提案の内容を記入下さい。

- ☐ 新製品情報 ☐ 技術情報 ☐ 標準化情報  
☐ 安価部品情報 ☐ 海外進出情報 ☐ グリーン調達情報

(全角250文字以内)

#### 4.貴社の概要

★貴社名	
★御名前	
役職名	
★郵便番号	-
★都道府県	
★住所	
★TEL	
FAX	
★E-mail	
自社URL	

★資本金(百万円)	
★売上高(年商:千円)	
★従業員数	
★設立年月日	
主要設備	
★主要生産品目	
主要取引先	
ISO取得	
(1)	取得年月: <input type="text"/>
(2)	取得年月: <input type="text"/>
帝国DB企業コード	

お問い合わせいただく前の注意に同意していただける場合は、下記の同意するにチェックを付けて「入力内容の確認」ボタンを押してください。

☐ 同意する

入力内容の確認

リセット

※調達に関係しない内容については、ご回答できない場合があります。

※購買方針に合致しないと判断された場合には、電子メール、FAXその他によるコンタクトをしない場合がありますので予めご了承ください。

### お問い合わせいただく前の注意

- お客様からいただく個人情報は、お問い合わせにお答えするために使用させていただきます。
- 利用目的の範囲内でお客様の個人情報を当社グループ会社や委託業者が使用することがございます。
- お客様は、お客様ご本人の個人情報について、開示、訂正、削除をご請求いただけます。その際はご連絡ください。
- ご記入いただけない場合はサービスの一部を提供できない場合がございます。
- お客様の個人情報の取り扱い全般に関する当社の考え方をご覧になりたい方は[個人情報保護方針](#)ページをご覧ください。
- 16歳未満のお客様は、保護者の方の同意を得た上でお申し込みください。
- 土曜日・日曜日・祝日・年末年始ほか、当社休業日にいただくお問い合わせについては、翌営業日以降の回答となりますのでご了承ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 トプコン [個人情報保護全社相談窓口](#)

Copyright © 1997-2009 TOPCON CORPORATION, All rights reserved.